

2025.10.30 作成

2025 年 10 月新聞書評に掲載された本



認知戦～悪意の SNS 戦略～(文春新書 1502)

イタイ・ヨナト 著

文藝春秋

誰もがスマホで SNS を使っているなか、人間の脳や心をターゲットにした「認知戦」や「影響力工作」の脅威が増している。イスラエルの諜報機関で実務経験を重ねた著者が、中国やロシアなどによる工作の手口と対抗策を明かす。

2025.8./ 191p
978-4-16-661502-5

¥990〔税込〕



産経新聞 2025/10/05



雨上がりの君の匂い

セドリック・サパン＝ドフル 著

河出書房新社

人生を素晴らしいものにする決定的な出会いは、味気ない日々いきなり起こる。「飼い主募集」の広告を見て、一匹の犬を飼い始めた著者が、人間と犬の種を超えた結びつきと、かけがえのない時間を振り返る普遍の愛の物語。

2025.6./ 245p
978-4-309-20927-2

¥2,640〔税込〕



産経新聞 2025/10/05



異常気象の未来予測(ポプラ新書 274)

立花 義裕 著

ポプラ社

毎年のように猛暑・豪雨・豪雪が襲い、異常気象が「普通」の時代へ突入した日本。生活はどう変化するのか？ 異常気象や気候問題の現状と未来予測、温暖化対策について解説する。Q&A も掲載。

2025.7./ 222p
978-4-591-18624-4

¥1,012〔税込〕



産経新聞 2025/10/05



凸凹で読みとくパリ～水に翻弄されてきた街の舞台裏～

佐川美加 著

学芸出版社

フランス・パリを「地面の凸凹と水」で読み解く土木史ガイド。古代から現代までの史実を交え、自然地形や人工構造物がセーヌ川などの水とどのように影響し合い街が変化してきたかを解明する。

2025.9./ 244p
978-4-7615-2950-5

¥2,200〔税込〕



産経新聞 2025/10/05

- ご注文の際には、タイトル・出版社名・価格のほか、ISBN も併せてお知らせください。
- 原価の改定、為替相場の変動などの理由により価格を変更する場合がございます。予めご了承の程お願い申し上げます。
- ご注文、ご照会は弊社本・支店・営業部(課)までお申し付けください。
- 表示価格は 2025 年 10 月時点での税込み価格です。



Tシャツの日本史

高畑 鉄名 著

中央公論新社

<裾>をインするかアウトするか。ファッション史の壮大な死角である T シャツには、日本の同調圧力と美の仕組みが隠されていた。夏目漱石の「赤シャツ」や石原裕次郎と太陽族など、T シャツの激動の 150 年を追う。

産経新聞 2025/10/05、東京・中日新聞 2025/10/12

2025:8./ 253p

978-4-12-005940-7

¥2,200〔税込〕



痛いところから見えるもの

頭木 弘樹 著

文藝春秋

なぜ痛みは人に伝わりづらいのか？潰瘍性大腸炎から腸閉塞まで、絶望的な痛みとともに生きていた著者が、同じ体験していない人にも共感してもらえるよう、「痛み」という個人的な体験を文学作品を多用しながら語る。

産経新聞 2025/10/05、読売新聞 2025/10/26

2025:9./ 318p

978-4-16-392017-7

¥1,870〔税込〕



名水と日本人～起源から百名水まで、文化と科学でひもとく～(中公新書 2875)

鈴木 康久、河野 忠 著

中央公論新社

日本人と縁が深い水。名水というキーワードから日本人と水の関わりを案内。弘法大師伝説が全国に広がった理由や、歌枕になった名水、茶の湯・酒造と名水などを時代ごとに解説する。名水の歴史と科学、文化を伝える一冊。

産経新聞 2025/10/12

2025:9./ 256p

978-4-12-102875-4

¥1,265〔税込〕



おまえレベルの話はしてない

芦沢 央 著

河出書房新社

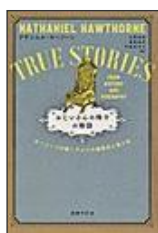
棋士という夢を追って切磋琢磨してきた芝と大島。芝は夢を叶えたものの成績が低迷、一方の大島は夢を諦め弁護士になった。今も消えない互いへの嫉妬、羨望、侮蔑。その行方にあるのは...?『スピノ』掲載などを単行本化。

産経新聞 2025/10/12

2025:9./ 185p

978-4-309-03225-2

¥1,815〔税込〕



おじいさんの椅子の物語～ホーソーンの描くアメリカ建国史と偉人伝～

ナサニエル・ホーソーン 著

国書刊行会

戦争あり、インディアンとの交流あり、さらには恋の成就や英雄の活躍あり。大作家ホーソーンが、植民地時代から建国までのアメリカの歴史を、おじいさんが孫たちに語るという形で平易に綴る。

産経新聞 2025/10/12

2025:8./ 469p

978-4-336-07769-1

¥3,520〔税込〕





勲章の近代史～権威と欲望のメカニズム～(歴史文化ライブラリー 619)

刑部 芳則 著

吉川弘文館

功績を讃えられた人が天皇から授与される勲章。その制度はいかに誕生し、運用されたのか。勲章が果たした役割を探り、叙勲をめぐる人間模様を描き出す。日本近代史に勲章を位置づけ、現在まで続く制度の意味を探る。

産経新聞 2025/10/12

2025:6./ 352p
978-4-642-30619-5

¥2,420〔税込〕



デデバグ

なべとびすこ 著

左右社

実家より実家みたいな縁側で寝転んだまま浴びてる小雨 このままじゃ無かったことにされるから叫べばのれんがただ揺れるだけ 花束をうまく喜べない僕にあなたが送ってくれる T シャツ 第1歌集。

産経新聞 2025/10/12

2025:10./ 166p
978-4-86528-486-7

¥1,980〔税込〕



これからの友情

丸田洋渡／丸田洋渡／丸田 洋渡 著

ナナロク社

藤が人語を初めて話すときそれは垂れるように不完全だった アルミニウムの胸をかかえてびかびかの官吏とのぎりぎりの駆け引き 2017 年から 2025 年までの作品から 500 首を収録した歌集。

産経新聞 2025/10/12

2025:9./ 500p
978-4-86732-034-1

¥2,860〔税込〕



呪文の言語学～ルーマニアの魔女に耳をすませて～

角 悠介 著

作品社

ルーマニアには古い魔女文化がいまも残っているとされている。東欧在住 20 年の言語学者が、魔女大国とも呼ばれるこの地の民間伝承や実体験をひもとき、“呪文の正体”に迫る。「言語学者から魔女へのインタビュー」も収録。

産経新聞 2025/10/12

2025:8./ 252p
978-4-86793-104-2

¥2,640〔税込〕



水族館のひみつ～海洋生物学者が教える水族館のきらめき～ カラー版(中公新書ラクレ 848)

泉貴人 著

中央公論新社

水族館の生物って、どこから来るの？ 舞台裏には得体のしれない生物がたくさんいる？ 生物の入手から展示、繁殖、研究、そして死後まで、海洋生物学者が水族館の表と裏のすべてを紹介する。全国おすすめ水族館ガイド付き。

産経新聞 2025/10/12、朝日新聞 2025/10/18

2025:8./ 269p
978-4-12-150848-5

¥1,485〔税込〕





うたかたの娘

綿原芹 著

KADOKAWA

「僕」の故郷は若狭のとある港町で、奇妙な人魚伝説があった。高校時代、並外れた美しさで目立っていた水嶋という女子生徒が、幼い頃に何かの血を飲んだことで顔の造りが美しく変化したのだと、「僕」に秘密を明かし…。

産経新聞 2025/10/19

2025/10./ 254p

978-4-04-116621-5

¥1,980〔税込〕



教養としての麻雀(祥伝社新書 719)

井出 洋介 著

祥伝社

基本ルールから戦術、知られざる歴史や効用まで。麻雀文化、健康マージャンの普及に努めてきた東大卒の元プロ雀士が、「頭脳スポーツ」としての麻雀の魅力を解説する。思い入れのある先人やライバル雀士についても語る。

産経新聞 2025/10/19

2025/9./ 230p

978-4-396-11719-1

¥1,056〔税込〕



ペンギンにさよならをいう方法

ヘイゼル・プライア 著

東京創元社

85歳のヴェロニカ・マクリーディ。悩みの種は、遺産のゆずり先。ある日、資金不足のアデリーペンギン研究を知った彼女は、ペンギンたちが遺産相続人としてふさわしいかを見極めるため、南極へ一世一代の旅に出る！

産経新聞 2025/10/19

2025/9./ 410p

978-4-488-01152-9

¥3,080〔税込〕



住まいの日本史

川本 重雄 著

吉川弘文館

日本の住まいは蒸し暑い夏に適応するように作られたものではない。竪穴住居から古民家まで、空間のもつ機能やデザインの違いに着目。壁が少なく、ふすまや障子で部屋を仕切る開放的な住まいが形成された歴史を解明する。

産経新聞 2025/10/19

2025/9./ 224p

978-4-642-08485-7

¥2,860〔税込〕



親中派 80年の嘘

櫻井よしこ 著

産経新聞出版

尖閣諸島・東シナ海ガス田への中国のサラム戦術と日本の無策を約20年間追った圧巻のレポートをはじめ、日本が中国に呑み込まれようとしている現実を伝える。雑誌掲載記事をまとめた著者の公式サイト収録のテキストを書籍化。

産経新聞 2025/10/19

2025/7./ 997p

978-4-8191-1457-8

¥2,970〔税込〕





ベースボールと野球を繋いだ男～Dr.Imazato/今里純 知られざる戦後・日米野球交流の物語～

竹本 武志 著

ヘソノオ・パブリッシング

終戦間もない兵庫の田舎町。進駐軍向けの短波ラジオの大リーグ中継に熱中した歯科医師は、ゲームの詳細を各球団へエアメールで問い合わせをするうちに…。戦後の日米野球界の架け橋となった、今里純の物語。

産経新聞 2025/10/19

2025:9./ 349p
978-4-9911225-2-1

¥2,640〔税込〕



父、正史 母、孝子～日本ミステリの巨匠・横溝正史と家族、仲間、そして末娘～

野本 瑠美 著

KADOKAWA

「犬神家の一族」「八つ墓村」「獄門島」「人形佐七捕物帳」…。膨大な名作を残した“探偵小説一代男”横溝正史の生涯と、妻の温かな献身。末娘がとっておきのエピソードを鮮やかに語る。

産経新聞 2025/10/26

2025:9./ 301p
978-4-04-116672-7

¥3,300〔税込〕



女の子の背骨

市川 沙央 著

文藝春秋

筋肉の難病を患うガゼルと、同じ病気を持つ姉との関係を描く表題作に、性差別主義的な哲学者を信奉する女子大学院生が三島由紀夫原作の AV に出ようとする「オフィーリア 23 号」を併録。『文藝界』掲載を書籍化。

産経新聞 2025/10/26

2025:9./ 219p
978-4-16-392021-4

¥1,870〔税込〕



中国と台湾～危機と均衡の政治学～

松田 康博 著

慶應義塾大学出版会

「台湾有事」は起こるのか？中国・台湾の外交と安全保障の第一人者が、兩岸関係の過去から説き起こし、台湾海峡に今後起こりうる事態のシナリオ・プランニングをもとに、日本を含めた東アジアの来るべき未来を探る。

産経新聞 2025/10/26

2025:7./ 448p
978-4-7664-3037-0

¥3,960〔税込〕



柳田國男の名著を読む～変革と保守の民俗学～

小野 耕資 著

彩流社

民俗学者・柳田國男は何を守ろうとし、何を变えようとしたのか。「遠野物語」「石神問答」「大嘗祭に関する所感」など主な 8 つの文章を読み解き、近代日本が失わざるを得なかったものをあぶり出す。

産経新聞 2025/10/26

2025:7./ 231p
978-4-7791-3064-9

¥2,750〔税込〕





リミナルスペース〜新しい恐怖の美学〜

ALT236 著

フィルムアート社

人の気配のない地下鉄の通路、寂れたショッピングモール、夜の遊園地…。インターネットを中心に爆発的に広がった 2020 年代を代表する新しい恐怖の美学、「リミナルスペース」誕生の過程とその影響を体系的に掘り下げる。

産経新聞 2025/10/26

2025:9./ 187p
978-4-8459-2400-4

¥3,740〔税込〕



イカの恋、タコの愛(岩波科学ライブラリー 336)

佐藤 成祥 著

岩波書店

イカとタコの姿形は人間とは似ても似つかず、風変わり。でも、変わっているのは姿だけではなく。愛の伝え方も人間の常識を超えていた! 情熱と冷淡さ、狡猾さと激しさがぶつかり合う恋模様を紹介する。

朝日新聞 2025/10/04

2025:8./ 146p
978-4-00-029736-3

¥1,980〔税込〕



奴隷〜小説・女工哀史 1〜(岩波文庫 青 135-2)

細井 和喜蔵 著

岩波書店

両親を失い、機屋の奉公人として働き始めた少年は、近代化の歯車が労働者を呑み込む中を生きる。少年の目に映る故郷の美しくも酷い情景、志の行く末は? 「女工哀史」著者の自伝的小説。

朝日新聞 2025/10/04

2018:10./ 558p
978-4-00-331352-7

¥1,386〔税込〕



セロ弾きのゴーシュ(日本の童話名作選)

宮沢 賢治、赤羽 末吉 著

偕成社

セロを弾くのが上手でないゴーシュの前に、夜毎あらわれる動物たち。岩絵の具と不透明水彩の個性豊かな絵にも注目。

朝日新聞 2025/10/04

1989:10./ 48p
978-4-03-963460-3

¥2,200〔税込〕



鴨川ホルモー(角川文庫)

万城目 学 著

角川書店

このごろ都にはやるもの、勧誘、貧乏、一目ぼれ―謎の部活動「ホルモー」に誘われるイカキョー(いかにも京大生)学生たちの恋と成長を描く超級エンタテインメント!!

朝日新聞 2025/10/04

2009:2./ 308p
978-4-04-393901-5

¥858〔税込〕





鴨川ランナー

グレゴリー・ケズナジャット 著

講談社

外国から京都に来た青年の日常や、周囲の扱い方に対する違和感、その中で生きる不安や葛藤等を「きみ」という二人称を用いた独特の文章で内省的に描く。日本語を母語としない著者が紡ぐ、新しい感性による越境文学。

朝日新聞 2025/10/04

2021:10./ 173p
978-4-06-524995-6

¥1,650〔税込〕



50歳の棚卸し

住吉 美紀 著

講談社

自分のせいで番組終了、ヤバすぎる元カレ、壮絶な不妊治療…。フリーアナウンサー・住吉美紀が50歳までの人生を見直した、正直すぎるエッセイ集。WEBマガジン『mi - mollet』掲載に加筆修正し書き下ろしを加える。

朝日新聞 2025/10/04

2025:9./ 237p
978-4-06-541011-0

¥1,650〔税込〕



いちげんさん

デビット・ゾペティ 著

集英社

ありったけの情熱、一度っきりの恋、まっすぐな恋。京都を舞台に留学生の僕と盲目の女性、京子の官能的恋愛を格調高い日本語で綴る。小説すばる文学賞受賞作品。

朝日新聞 2025/10/04

1997:1./ 190p
978-4-08-774243-5

¥1,281〔税込〕



太陽の塔(新潮文庫)

森見 登美彦 著

新潮社

朝日新聞 2025/10/04

2006:5./ 237p
978-4-10-129051-5

¥649〔税込〕



京都

黒川 創 著

新潮社

「平安建都千二百年」が謳われる京都で、地図から消された小さな町。かつてたしかにそこにいた、履物屋の夫婦と少年の自分。4つの町をめぐりながら、人の生の根源に触れる連作小説。『新潮』掲載を単行本化。

朝日新聞 2025/10/04

2014:10./ 251p





ヨー・ファン・ゴッホ=ボンゲル画家ゴッホを世界に広めた女性

ハンス ライテン 著

NHK出版

フィンセント・ファン・ゴッホの義妹ヨー。膨大なゴッホ作品を受け継ぎ、作品の普及に生涯を捧げ、世界各地での展覧会の開催、有力な画商や顧客に対する戦略的販売など男性優位の美術市場を切り拓いた彼女の生涯を追う。

朝日新聞 2025/10/04

2025:6./ 636p 図版 48p

978-4-14-081992-0

¥5,940〔税込〕



運命の男たち

ナディーファ・モハメッド 著

早川書房

1950年代、英国カーディフの港町で、ユダヤ系女性の殺人事件が起きた。警察は「犯人は黒人」と決めつけ、ソマリ人の元船員マタンを逮捕し…。歴史に刻まれた司法の誤りを問う、実話に基づく冤罪の物語。

朝日新聞 2025/10/04

2025:7./ 377p

978-4-15-210443-4

¥3,520〔税込〕



考古学の黎明～最新研究で解き明かす人類史～(光文社新書 1377)

小茄子川歩、関雄二 著

光文社

狩猟採集生活→農耕革命→人口増→貧富の差の出現→都市の誕生→国家の誕生という「進歩史観」は正しいのか？「万物の黎明」に衝撃を受けた考古学者らが、自らの最新研究を基に、人類史を解明する。

朝日新聞 2025/10/04

2025:9./ 446p

978-4-334-10753-6

¥1,430〔税込〕



翻訳できない世界のことば

エラ・フランシス・サンダース、前田 まゆみ 著

創元社

インドネシア語「JAYUS」(笑うしかないくらい笑えないひどいジョーク)など、他の言語に訳すと一言では言い表せない「翻訳できないことば」を世界中から集め、感性豊かな解説と瀟洒なイラストを添えて紹介する。

朝日新聞 2025/10/04

2016:4./ 111p

978-4-422-70104-2

¥1,760〔税込〕



倫理思考トレーニング(ちくま新書 1875)

伊勢田 哲治 著

筑摩書房

わかり合えない人と話し合うために。意見のすれ違う人と話し合うのは不毛か。「論破」したら勝ち、でいいのか。「価値観の壁」を越え、生産的に議論するためのクリティカル・ディスカッション入門。

朝日新聞 2025/10/04

2025:9./ 445p

978-4-480-07706-6

¥1,540〔税込〕





活動写真の女 新装版(双葉文庫 あ-25-04)

浅田次郎 著

双葉社

京大生になったばかりの<僕>は、古びた映画館で清家忠昭に出会い、彼のつてで映画撮影所のアルバイトを始める。そこで清家は美しい女性に心奪われるが、彼女は30年も前に自殺した大部屋女優だった…。幻想的恋愛小説。

朝日新聞 2025/10/04

2020:1./ 350p

978-4-575-52306-5

¥748〔税込〕



コンパートメント No.6

ロサ・リクソム 著

みすず書房

フィンランド人の寡黙な少女と、ロシア人の出稼ぎ夫。ソ連崩壊直前の春、モスクワからウランバートルへ向かう寝台列車の同じ部屋に乗りあわせたふたりは、偶然にまかせて旅をして…。ロードノベル。

朝日新聞 2025/10/04

2025:7./ 215p

978-4-622-09795-2

¥3,630〔税込〕



セロ弾きのゴーシュ(画本宮澤賢治)

宮澤 賢治、小林 敏也 著

好学社

仲間の楽手のなかでいちばん下手なセロ弾きのゴーシュが、家で一生懸命、練習をしていると…。デザイナーでイラストレーターの小林敏也が、多くの人の心に残る宮澤賢治の「セロ弾きのゴーシュ」の世界を美しい版画で描きだす。

朝日新聞 2025/10/04

2014:2./ 44p

978-4-7690-2308-1

¥1,980〔税込〕



生きとし生けるもの〜入管ウォッチャー15年の面会報告〜

西山誠子 著

風媒社

国境は人間の尊厳の境界ではない。「入管」で面会活動を続け、収容者と対話を重ねてきた著者が、人権保護の及ばない特異な組織の素顔と、囚われた人たちの人生の真実をものがたる。Facebook 掲載を書籍化。

朝日新聞 2025/10/04

2025:7./ 294p

978-4-8331-1166-9

¥1,980〔税込〕



セロひきのゴーシュ(福音館創作童話シリーズ)

宮沢 賢治 著

福音館書店

ゴーシュは動物たちの助けをかりてセロの練習をします。「賢治を描いては最高」といわれる画家の絵をそえて1冊に仕上げられた、文学のすばらしい贈り物です。

朝日新聞 2025/10/04

2001:8./ 56p

978-4-8340-0056-6

¥1,210〔税込〕





あたらしいともだち〜かわじろう短編集〜

かわじろう 著

マガジンハウス

朝日新聞 2025/10/04

2025.9./ 188p

978-4-8387-3345-3

¥990〔税込〕



現代史の起点〜ソ連終焉への道〜

塩川 伸明 著

岩波書店

ペレストロイカ、東欧の激動、冷戦の終焉、そしてソ連の解体へ。<いま>の世界はここから始まった。どうしてソ連はあっけなく解体したのか。時代を画す大変動のプロセスを、多面的かつ包括的に描く。

2025.7./ 486p

978-4-00-061704-8

¥3,740〔税込〕



朝日新聞 2025/10/04、朝日新聞 2025/10/11



失われたバンクシー〜あの作品は、なぜ消えたのか〜

ウィル・エルスワース＝ジョーンズ 著

青幻舎

世界で最も有名なアーティストの一人であり、誰よりも物議を醸し続けるバンクシー。バンクシーの作品のうち、売られ、盗まれ、あるいは破壊されて消えてしまった作品を貴重な写真を交えて収録する。

2025.8./ 143p

978-4-86152-989-4

¥2,970〔税込〕



朝日新聞 2025/10/04、読売新聞 2025/10/26



趣都(モーニング KC コミックス)

山口 晃 著

講談社

画家・しわぶき先生の案内で三吉くんとトシ子さんが散歩するのは、懐かしいのに誰も見たことがない、過去のような、未来のような、夢のような不思議の都〈まち〉。日本を代表する画家、初めての「漫画雑誌」連載作品!

2025.9./ 131p



朝日新聞 2025/10/04、毎日新聞 2025/10/25



新しい階級社会〜最新データが明かす<格差拡大の果て>〜(講談社現代新書 2779)

橋本 健二 著

講談社

1980 年前後に始まった日本社会の格差拡大は、すでに後戻りできないまでに固定化され、今や日本には「新しい階級社会」が成立している。2022 年の最新調査データを基に、日本社会の実態を明らかにする。

2025.6./ 329p

978-4-06-539903-3

¥1,320〔税込〕



朝日新聞 2025/10/11



殺し屋の営業術

野宮 有 著

講談社

凄腕営業マン・鳥井は、深夜のアポイント先で刺殺体を発見する。金で殺人を請け負う「殺し屋」に口封じとして消されそうになるが、「あなたは幸運です。私を雇いませんか?」と、鳥井は商談を始めて…。

朝日新聞 2025/10/11

2025:8./ 277p

978-4-06-540330-3

¥2,145〔税込〕



戦争みたいな味がする

グレイス・M・チョー、石山 徳子 著

集英社

在韓米軍基地周辺で働いていた母親は、アメリカ人男性との結婚を機に渡米し、新生活を切り拓いていくが…。戦争、移民、家族と食。母娘の記憶から現代社会の論点を浮き彫りにする、コリア系アメリカ人社会学者による回想録。

朝日新聞 2025/10/11

2025:7./ 437p

978-4-08-789021-1

¥3,080〔税込〕



厳島(新潮文庫 た-127-4)

武内 涼 著

新潮社

兵力わずか四千の毛利元就軍が二万八千の陶晴賢軍を打ち破った「厳島の戦い」。名勝負の陰には壮絶な人間ドラマがあった。毛利元就と弘中隆兼の対照的な2人の武将を通して人間の矜持を問う歴史巨編。

朝日新聞 2025/10/11

2025:10./ 543p

978-4-10-101554-5

¥990〔税込〕



複合不況～ポスト・バブルの処方箋を求めて～(中公新書)

宮崎 義一 著

中央公論新社

朝日新聞 2025/10/11

1992:6./ 262p



修道女フィデルマの慧眼(創元推理文庫 修道女フィデルマ短編集 Mト 6-24)

ピーター・トレメイン 著

東京創元社

法廷弁護士にして裁判官、旅する修道女探偵フィデルマが事件を鮮やかに解決する短編集。ラーハン王国の大祭を訪れたフィデルマが、酒飲み競争中に死んだ闘士の事件に挑む「夜の黄金」など全5編を収録。

朝日新聞 2025/10/11

2025:8./ 254p

978-4-488-21830-0

¥1,100〔税込〕





「イスラエル人」の世界観

大治朋子 著

毎日新聞出版

長期化する、イスラエルによるガザ攻撃。なぜ世界中から非難されても、彼らは報復を止めないのか。特派員、研究者として現地に 6 年半暮らした経験を基に、歴史的経緯から紡ぎ出されるイスラエルの光と闇の世界を徹底解説する。

朝日新聞 2025/10/11

2025:6./ 317p
978-4-620-32838-6

¥1,980〔税込〕



君たちはなぜ、そんなことしてるのか?～東大准教授のひそやかな動物行動学講義～

松原 始 著

山と溪谷社

人間をミツバチの巣に案内する鳥、キリンの首が長い本当の理由、電球の周りを飛ぶ虫…。動物たちのやっていることが何なのか、なぜそんなことをするのかを研究する「動物行動学」の超入門。鳥類学者がユーモアを交えて解説。

朝日新聞 2025/10/11

2025:7./ 332p
978-4-635-06365-4

¥1,980〔税込〕



一年一組せんせいあのね～こどものつぶやきセレクション～

鹿島和夫 著

理論社

1 にち 24 じかん みじかすぎる だれがきめたんや 神戸市小学校で鹿島和夫が担任した学級の小学校 1 年生が書いた日記ノート<あのね帳>から生まれた本。54 人の子どもたちの詩をヨシタケシンスケの絵とともに収録。

朝日新聞 2025/10/11

2023:5./ 111p
978-4-652-20548-8

¥1,650〔税込〕



奥州狼狩奉行始末(ハルキ文庫 時代小説文庫 あ 40-4)

東 圭一 著

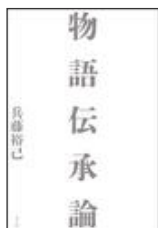
角川春樹事務所

狼を狩る役、狼狩奉行に就くよう藩から申し渡された、岩泉亮介。狼の群れは「黒紋り」という見たこともない大きな頭目に率いられ、かつてないほどの狼害を引き起こしていた。だが「黒紋り」を追う内に…。

朝日新聞 2025/10/11

2025:8./ 221p
978-4-7584-4744-7

¥792〔税込〕



物語伝承論

兵藤 裕己 著

青土社

「平家物語」の演奏、盲僧琵琶の伝承、言文一致体の起源など、従来の文学史からはこぼれ落ちる「声」の「ものがたり」をひろいあげ、いままで見えなかった豊饒な文学世界について論じる。第一人者による壮大な文学論。

朝日新聞 2025/10/11

2025:6./ 600p
978-4-7917-7722-8

¥5,720〔税込〕





零落の賦

四方田 犬彦 著

作品社

名誉と栄光を欲しいがまま生きた者たちは、なぜにかくも見捨てられ、忘れられ、悲惨な終末を遂げるのか。文学、演劇、映画を横断し、人間存在の本質に宿る<零落>を論じる長編エッセイ。『文学界』連載を書籍化。

朝日新聞 2025/10/11

2025:8./ 384p
978-4-86793-105-9

¥3,740〔税込〕



パンチラインの言語学

川添愛 著

朝日新聞出版

文学、映画、アニメ、漫画でひとときわ印象に残る「名ゼリフ=パンチライン」。そこに隠れた言語学的魅力を、気鋭の言語学者が解説する。『web TRIPPER』連載を加筆修正し単行本化。

朝日新聞 2025/10/11、毎日新聞 2025/10/11、読売新聞 2025/10/26

2025:9./ 197p
978-4-02-252075-3

¥1,760〔税込〕



セツと八雲(朝日新書 1019)

小泉凡 著

朝日新聞出版

孤独な幼少期を経て日本にやってきたラフカディオ・ハーン(小泉八雲)と、没落した武家の娘・小泉セツの出会いにより生まれた再話文学の世界。夫婦の歩みと、紡ぎ出された作品の豊かな世界、その現代性を、ひ孫が語り尽くす。

朝日新聞 2025/10/18

2025:9./ 215p
978-4-02-295337-7

¥957〔税込〕



海(新潮文庫)

小川 洋子 著

新潮社

朝日新聞 2025/10/18

2009:3./ 184p
978-4-10-121524-2

¥572〔税込〕



古文書学入門 新版

佐藤 進一 著

法政大学出版局

近年めざましい進歩をとげている日本古文書学の最新研究成果をふまえ、古文書例文の増補、名辞・語彙の補訂などに特に留意。97年刊新版の新装版。

朝日新聞 2025/10/18

2003:3./ 388p
978-4-588-32011-8

¥3,630〔税込〕





記憶を語る,歴史を書く～オーラルヒストリーと社会調査～

朴 沙羅 著

有斐閣

市井の人の証言は、歴史的な史料としてどのような意味で信頼に足るのか。社会科学が各国・各領域で続けてきた諸論争を検討。著者自身の実践を通してオーラルヒストリー/口述史を捉え直し、方法論として位置づける。

朝日新聞 2025/10/18

2023:3./ 298p
978-4-641-14943-4

¥2,530〔税込〕



ウィリアム・モリス～ロマン派から革命家へ～

E. P. トムスン 著

月曜社

ロマン派の反抗者ウィリアム・モリスが、「火の川」をわたり、革命家になった。思想家・革命家としてのモリスを、20世紀後半に活動した歴史家・社会活動家トムスンが精緻に描く。モリス研究史上の画期となった名著の完訳。

朝日新聞 2025/10/18

2025:7./ 769p
978-4-86503-205-5

¥7,480〔税込〕



「九月」を生きた人びと～朝鮮人虐殺の「百年」～

加藤 直樹 著

ころから

関東大震災時の朝鮮人虐殺に関わって著者が書いた文章や講演の記録を集成。1923年の大震災発生前の東アジア状況から、虐殺事件50周年に建立された追悼碑のいきさつ、ヘイトデモの勃興と抵抗まで描く。

朝日新聞 2025/10/18

2025:9./ 201p
978-4-907239-81-7

¥1,980〔税込〕



第七問

リチャード・フラナガン 著

白水社

終末的未来の危機を描いた小説家H・G・ウェルズ。原爆開発に端緒を開いた物理学者レオ・シラード。泰緬鉄道から生還した父とその家族。流刑地だった母国とそこに住む人々の歴史を描くメモワール。

朝日新聞 2025/10/18、東京・中日新聞 2025/10/26

2025:8./ 269p
978-4-560-09186-9

¥3,300〔税込〕



暗黒のアメリカ～第一次世界大戦と追い詰められる民主主義～

アダム・ホックシールド 著

みすず書房

国を戦争に導いた権力者から、選挙運動で外国人の「追い出し」を唱える政治家、自由を求めた抵抗者まで、第一次世界大戦という米最暗黒時代を活写する。敵意が渦巻く政治空間に生きる21世紀の人のためのノンフィクション。

朝日新聞 2025/10/18、日本経済新聞 2025/10/25

2025:9./ 488p
978-4-622-09804-1

¥4,950〔税込〕





難聴を生きる～音から隔てられて～(岩波新書 新赤版 2082)

宿谷 辰夫、宇田川 芳江 著

岩波書店

身近にたくさんいるにもかかわらず、難聴者や中途失聴者が生きる現実ほとんど知られていない。日常にある孤独から、仕事での苦労、あるべき支援や聴覚補償まで、多くの当事者たちの声とともに伝える。

2025.9./ 236p
978-4-00-432082-1

¥1,034〔税込〕



朝日新聞 2025/10/18、毎日新聞 2025/10/18



カウンセリングとは何か～変化すること～(講談社現代新書 2787)

東畑 開人 著

講談社

カウンセリングの果たしている社会的機能とは。いかなる苦悩を扱い、引き受け、人に何をもたらすのか。人が変わるとはどういうことか。カウンセリングの全体像を明らかにし、心がいかに変化するのかを明らかにする。

2025.9./ 441p
978-4-06-541195-7

¥1,540〔税込〕



朝日新聞 2025/10/18、毎日新聞 2025/10/18、日本経済新聞 2025/10/25



茨木のり子全詩集 新版

茨木 のり子、宮崎 治 著

岩波書店

「対話」「鎮魂歌」「自分の感受性くらい」「倚りかからず」「歲月」など、茨木のり子の全詩集と詩集未収録詩篇、著者の「スクラップブック」6冊に遺された全詩作品を掲載。新発見の詩、代表的エッセイ、口絵写真を追加収録。

2025.9./ 546p
978-4-00-061713-0

¥9,020〔税込〕



朝日新聞 2025/10/25



爆心を見つめて～広島の88歳医師、隠れた真相を追う～

鎌田七男／宮崎園子 著

朝日新聞出版

核兵器は人間を生涯、虐待し続ける。原爆投下当時、広島市の爆心地から500メートル以内で生き残った78人の追跡調査や、数千人に及ぶ被爆者治療に当たった88歳の医師が、原爆の非人道性を次世代の人々に訴える。

2025.7./ 232p
978-4-02-252070-8

¥2,090〔税込〕



朝日新聞 2025/10/25



おしゃべりねずみゴル・ゴーン・ゾラ

小森香折 著

偕成社

人間の言葉をしゃべれる子ねずみのゴル、ゴーン、ゾラ。チーズ屋で人助けをしたり、幽霊を呼び出す会に潜りこんだり、ねずみとり男と対決したり、大冒険をくりひろげ…。3つの話を収録。

2025.9./ 120p
978-4-03-530790-7

¥1,650〔税込〕



朝日新聞 2025/10/25



空、はてしない青<上>

メリッサ・ダ・コスタ 著

講談社

余命2年と宣告されたエミルは、人生最後の旅の同行者を掲示板で募集する。返信をくれたジョアンヌと名乗る小柄な若い女性と2人で、とりあえずキャンプカーでピレネー山脈へ向かう。それは驚くほど美しい旅の始まりで...

朝日新聞 2025/10/25

2025.9./ 412p
978-4-06-535416-2

¥2,310〔税込〕



空、はてしない青<下>

メリッサ・ダ・コスタ 著

講談社

どこまでも続く空と海。エミルとジョアンヌは、南フランスの陽光きらめく中をキャンプカーで旅していた。子猫のポックと出会い、2人と1匹は静かに時を重ねる。しかし、進行する病が、エミルをゆっくりと蝕んでいき...

朝日新聞 2025/10/25

2025.9./ 412p
978-4-06-539587-5

¥2,310〔税込〕



石原家の兄弟

石原 伸晃／石原 良純／石原 宏高／石原 延啓 著

新潮社

父は昭和を代表する作家にして政治家。奔放な夫を支える母。伯父は昭和の大人気俳優。そこに生まれた兄弟の生き様は四者四様で...。石原家に生まれた自身の半生から両親の最期まで、11のテーマで四兄弟が綴る。

朝日新聞 2025/10/25

2025.10./ 285p
978-4-10-387503-1

¥1,980〔税込〕



妹の力・女性生活史(中公文庫 や 68-2)

柳田國男 著

中央公論新社

女性の主体性に着目した記念碑的論考「妹の力」をはじめ、「毎日の言葉」「婚姻の歴史」など、1925年から1952年までに『婦人公論』に発表した全8篇を収録。問答形式による民俗学入門。

朝日新聞 2025/10/25

2025.9./ 297p
978-4-12-207702-7

¥1,100〔税込〕



じゃないほうの歌いかた

佐々木 愛 著

文藝春秋

落合南長崎の独立系カラオケ店「BIG NECO」では、今日もドラマが巻き起こる。うだつのあがらない凡人たちが起こす、ちょっとした人生の奇跡ときらめきの物語。『オール讀物』掲載に書き下ろしを加え単行本化。

朝日新聞 2025/10/25

2025.8./ 210p
978-4-16-392006-1

¥1,980〔税込〕





子ブタたちはどう生きたのか〜ぶうぶうう農園の7か月〜

太田 匡彦 著

岩崎書店

生き生きとしたブタたちの姿が見られる、山梨県韮崎市のぶうぶうう農園。一般的な養豚場とはどんな違いがあるのか。子ブタたちが生まれてからの7か月を追い、ブタの豚生(とんせい)を通してアニマルウェルフェアを考える。

朝日新聞 2025/10/25

2025:9./ 157p

978-4-265-08044-1

¥1,650〔税込〕



だいじだいじどこだ?〜はじめての「からだ」と「性」のえほん〜

遠見 才希子 著

大泉書店

自分のからだは、自分のもの。だいじなからだの、特別だいじな「プライベートパーツ」について、子どもにもわかるように説明。性暴力にあいそうになったとき、どうすればよいのかも伝える。相談窓口も掲載。

朝日新聞 2025/10/25

2021:7./ 32p

978-4-278-08700-0

¥1,320〔税込〕



洗礼ダイアリー(河出文庫 ふ 23-1)

文月 悠光 著

河出書房新社

不器用で人付き合いが下手な自分には、「社会の歯車」が雲の上の存在に思えた。社会の一員として生きていくうえでのさまざまな通過儀礼<洗礼>とぶつかり合うことで生まれた衝撃を綴ったエッセイ集。追記を加えて文庫化。

朝日新聞 2025/10/25

2025:9./ 235p

978-4-309-42193-3

¥990〔税込〕



欲しがりません勝つまでは(光文社文庫 た 14-8)

田辺聖子 著

光文社

昭和16年、日本は戦争のまっ只なかにあった。十三歳の夢見がちな文学少女は、時代のなかで、いつしか軍国少女になっていった。そして終戦。著者の少女時代を通して、戦争のひとつの姿を描く。

朝日新聞 2025/10/25

2025:8./ 333p

978-4-334-10728-4

¥880〔税込〕



命の宿題〜「殺処分ゼロ」を語った日から...〜

今西乃子 著

新日本出版社

施設に収容されている多くが、人間が苦手な犬、咬むクセのある犬など、新たな飼い主への譲渡が難しい犬たち。「真の殺処分ゼロ」のため私たちが考えるべきこととは? 各地の動物愛護センターを取材したルポルタージュ。

朝日新聞 2025/10/25

2025:9./ 143p

978-4-406-06904-5

¥1,650〔税込〕





ユーモアの鎖国 新版(ちくま文庫 い7-4)

石垣 りん 著

筑摩書房

14歳から銀行で働き、焼けた東京で詩を書いた。戦後日本を代表する詩人・石垣りんが、転換期にある国を見つめ、人ひとりの自由と時を重ねる日々の強さを真摯かつ鮮やかに綴った自伝的エッセイ集を復刊。

朝日新聞 2025/10/25

2025:6./ 308p
978-4-480-44040-2

¥990〔税込〕



シュルレアリスム〜その思想と時代〜 増補(ちくま学芸文庫 サ20-2)

酒井 健 著

筑摩書房

シュルレアリスムは、ブルトンらを中心とした芸術運動にとどまらない、第一次大戦後の幅広い文化運動だった。パタイユやベンヤミンらの思想を補助線として、その革命精神を読み解く名著。パタイユ講演録も収録した完全版。

朝日新聞 2025/10/25

2025:9./ 432p
978-4-480-51329-8

¥1,540〔税込〕



涙の箱

ハン・ガン 著

評論社

ある村にひとりの子どもが住んでいた。その子は、みんながまるで予測も理解もできないところで涙を流した。ある日、涙を集めている男が、子どもを訪ねてきて…。ノーベル文学賞作家ハン・ガンがえがく、大人のための童話。

朝日新聞 2025/10/25

2025:8./ 85p
978-4-566-02489-2

¥1,650〔税込〕



国際政治における認知と誤認知

ロバート・ジャーヴィス 著

みすず書房

外交政策を決めるときに、どのような認知エラーが発生するか？ 政治にかかる信念体系、他者についての心証はどのように形成されるのか？ 認知心理学的アプローチから、国際政治における認知と誤認知を解き明かす。

朝日新聞 2025/10/25

2025:8./ 752p
978-4-622-09799-0

¥7,920〔税込〕



「ナガサキ」を生きる〜原爆と向き合う人生〜

高瀬 毅 著

亜紀書房

なぜ、神の聖地「ナガサキ」に原爆は落とされたのか。なぜ、短期間に2発もの原爆が投下されたのか。長崎出身の被爆二世が、被爆者や関係者への取材、日米の膨大な資料をとおして“人類史上最大の悲劇”の核心に迫る。

朝日新聞 2025/10/25

2025:7./ 273p
978-4-7505-1881-7

¥2,200〔税込〕





こぎつねのママ ママのこぎつね

施暖暖、龍縁之 著

現代書館

毛皮工場から逃げ出したきつねのママは、こぎつねと会うことができるのか？ こぎつねは、ママと再会できるのか？ 前からも後ろからも読める、台湾発・動物たちのいのちとひとの暮らしを考える絵本。

朝日新聞 2025/10/25

2025:6./ 48p

978-4-7684-5975-1

¥2,200〔税込〕



ひぐま

あべ弘士 著

ブロンズ新社

ひぐまのあかちゃんは冬眠中に生まれる。「かあさん、あのトントンはなんのおと？」 くらい巣穴のなかで、親子が話をしていると…。野生のいのちの神秘を描く。リーフレット「ひぐましつもん箱」付き。

朝日新聞 2025/10/25

2025:9./ 32p

978-4-89309-746-0

¥1,760〔税込〕



還って来なかった兵たちの絶唱～戦後八十年～

栗林 浩 著

KADOKAWA

戦後八十年、日本は稀有に長い平和な日々を楽しんでいる。戦場から還って来られなかった兵士たちの絶唱にも似た俳句、戦争で亡くなった俳人たちの俳句を通して、戦争を思い起こし、平和を確認する。

朝日新聞 2025/10/26

2025:9./ 186p

978-4-04-884666-0

¥3,520〔税込〕



どら蔵

朝井 まかて 著

講談社

天保の世。大坂にいられなくなった道具商の放蕩息子「どら蔵」は、江戸の骨董商の世界へ。お宝を巡って時に騙され、時に勝負をかけ、時々情に流され…。学芸通信社の配信により各紙にて掲載したものに加筆修正。

東京・中日新聞 2025/10/04

2025:9./ 470p

978-4-06-540213-9

¥2,475〔税込〕



最後の山

石川 直樹 著

新潮社

生涯の友となった新世代のシェルパとの出会い、「真の頂上」問題、山頂直下で目撃した衝撃的な遭難。標高 8000 メートル超の 14 座の山全てに写真家として史上初めて登頂した軌跡を綴る。『新潮』掲載に加筆・修正。

東京・中日新聞 2025/10/05

2025:8./ 267p 図版 16p

978-4-10-353692-5

¥2,420〔税込〕





戦前エキセントリックウーマン列伝

平山亜佐子 著

左右社

男装のバンカラ陶彫家、芸と神秘に憑かれた女…。偉業と異業を成し遂げた戦前の女たち 20 人の生き様を、愛を込めて描いたノンフィクション。メールマガジン『ROADSIDERS' weekly』連載を加筆し書籍化。

東京・中日新聞 2025/10/05

2025.7./ 310p
978-4-86528-474-4

¥2,420〔税込〕



<聖戦>という思想〜近代日本の宿命〜

田中 久文 著

作品社

近衛文麿らの総力戦体制論、石原莞爾、大川周明らの超国家主義や京都学派「近代の超克」論など、先人たちの思考を丁寧に再読。戦争に人々を駆り出した<思想>から、冷静に未来の日本の指針を考える。

東京・中日新聞 2025/10/11

2025.8./ 311p
978-4-86793-106-6

¥2,970〔税込〕



英雄の輪〜HERO's ISLAND Another Story〜

真藤 順丈 著

講談社

あの島の「英雄」はひとりじゃなかった-。時代も年齢も多種多様な「戦果アギヤー」の姿を描く、6つの「宝」の物語。「宝島」の続編。『小説現代』掲載を大幅に加筆・修正、書き下ろしを加え書籍化。

東京・中日新聞 2025/10/11、東京・中日新聞 2025/10/19

2025.9./ 401p
978-4-06-517753-2

¥2,365〔税込〕



見えない壁〜北方四島の記憶〜

本間 浩昭 著

KADOKAWA

強奪、性暴力、発砲の恐怖。国家に棄てられた島民はいかに生き延びたのか。太平洋戦争末期のソ連軍侵攻で占領され、移住してきたソビエト国民との混住を余儀なくされた北方領土の元島民を訪ね、その実態を探る。

東京・中日新聞 2025/10/18

2025.8./ 318p
978-4-04-105253-2

¥2,200〔税込〕



マーベル・コミックのすべて

ダグラス・ウォーク 著

作品社

マーベル作品の“ほぼ”すべて、2万7000冊以上を読破した著者による、作品宇宙の完全ガイド。マーベル・ストーリー要約集、関連作品の翻訳を手掛けてきた訳者による詳細な用語註・索引付き。

東京・中日新聞 2025/10/18

2025.8./ 605p
978-4-86793-101-1

¥6,930〔税込〕





悲劇とは何か

テリー・イーグルトン 著

平凡社

神も英雄も消え去り、あらゆるものが無意味に映るいま、人間はいかにして救われるのか。「オイディプス王」からシェイクスピア、ニーチェまで、西欧の悲劇の系譜をたどりながら近代の条件を問い直す、現代批評の新たな地平。

東京・中日新聞 2025/10/19

2025:8./ 315p
978-4-582-70373-3

¥4,950〔税込〕



ヒゲのガハクごはん帖

梅村 由美 著

集英社

自宅で、行きつけの店で、はたまた旅先で-。画家・山口晃の「食」へのこだわりに振り回される日常を、妻の梅村由美が愛憎込めて綴った17篇を収録。ウェブメディア『MON ONCLE』連載を抜粋、改稿・加筆。

東京・中日新聞 2025/10/25

2025:10./ 205p
978-4-08-781766-9

¥2,310〔税込〕



ぼくのスパイス宇宙

矢萩 多聞 著

晶文社

クミンシード香るマンゴーでかきこむ飯の味、コリアンダーリーフの知られざる効用...。長くインドと日本を行き来する生活をしてきた装丁家が綴るスパイスの世界。31のレシピ付き。ZINEを加筆修正。

東京・中日新聞 2025/10/25

2025:9./ 319p
978-4-7949-8018-2

¥1,980〔税込〕



サティとドビュッシー〜先駆者はどちらか〜

青柳 いづみこ 著

春秋社

フランス音楽史上、最も影響力をもち最も異彩を放つ<奇才>サティと<天才>ドビュッシーの頂上決戦! ローマ大賞、独立芸術書房、万博とワグネリズムなどあらゆるトピックから、燦然と輝くフランス近代音楽史を旅する。

東京・中日新聞 2025/10/26

2025:7./ 338p
978-4-393-93240-7

¥3,300〔税込〕



物語化批判の哲学〜<わたしの人生>を遊びなおすために〜(講談社現代新書 2782)

難波 優輝 著

講談社

就活ウケするエピソード、共感を呼ぶSNS投稿...。「何者か」になるための物語で溢れた現代を批判。人生の物語化の持つ魔力と危うさを論じ、物語の危険を避け、物語を相対化できるような思考を「遊び」を手がかりに探索する。

読売新聞 2025/10/05

2025:7./ 237p
978-4-06-539964-4

¥1,056〔税込〕





蜻蛉の夏

垣根 涼介 著

小学館

織田信長が天下統一へ向け着々と歩みを進めていた元亀元年、「止観の道士」たちの運命が交差する。修業の末に彼らが得た止観の力は、織田家との戦いに大きな影響を与え…。『週刊ポスト』連載を大幅に加筆・修正。

読売新聞 2025/10/05

2025:9./ 605p
978-4-09-380131-7

¥2,200〔税込〕



日本終戦史 1944-1945〜平和工作から昭和天皇の「聖断」まで〜(中公新書 2867)

波多野 澄雄 著

中央公論新社

米・中・英・ソとの第2次世界大戦はどう終わったか。最新研究を踏まえ、昭和天皇・近衛文麿・木戸幸一・鈴木貫太郎らの肉声を辿り、「狂気の時代」の真実と結末を見通す。年表も収録。

読売新聞 2025/10/05

2025:7./ 336p
978-4-12-102867-9

¥1,210〔税込〕



関係人口の時代〜「観光以上、定住未満」で地域とつながる〜(中公新書 2868)

田中 輝美 著

中央公論新社

関係人口の増加で都市と地方はどのように変わり、個人のライフスタイルにどんな影響があるのか。関係人口研究の第一人者が、全国の事例をもとに、現状と具体的な課題、実践に向けたヒントを示す。

読売新聞 2025/10/05

2025:8./ 256p
978-4-12-102868-6

¥1,056〔税込〕



昭和の遺書(中公文庫 か 99-1)

梯久美子 著

中央公論新社

芥川龍之介、太宰治、円谷幸吉、石原裕次郎、昭和天皇といった著名人から、特攻兵、戦没学徒など市井の人まで、彼らの遺書で昭和の歴史をたどる。新章「平成の遺書を読む」を加えて文庫化。

読売新聞 2025/10/05

2025:8./ 252p
978-4-12-207691-4

¥990〔税込〕



柳宗悦〜美を生きた宗教哲学者〜(NHK ブックス 1296)

若松 英輔 著

N H K 出版

民衆の日常で使われていた雑器を「民藝」と名付け、その美の中に救いを見出した柳宗悦。文学・哲学・宗教など様々な分野の人物と交流のあった生涯と、彼の代表作から、その思想を鮮やかに描き出す。

読売新聞 2025/10/05

2025:8./ 337p
978-4-14-091296-6

¥1,980〔税込〕





天下の値段～享保のデリバティブ～

門井 慶喜 著

文藝春秋

時は江戸時代、大坂堂島で特に盛んだったのが先物取引。幕閣は堂島を支配すべく動き出すのだが…。市場の自治を守らんとする大坂商人たちと、武士の誇り(とお金)を懸けた江戸幕府との頭脳戦。『別冊文藝春秋』掲載を書籍化。

読売新聞 2025/10/05

2025:8./ 415p

978-4-16-392002-3

¥1,980〔税込〕



チャールズ・T・マンガーの金言

ピーター・D・カウフマン 編

チャールズ・T・マンガー 著

日経BP社

ウォーレン・E・バフェットの相棒にして伝説的な投資家、チャールズ・T・マンガー。彼の学習、意思決定、投資に対するアプローチや講演の内容、ウィットに富んだ言葉などを紹介する。バフェットらの序文も収録。

読売新聞 2025/10/05

2025:9./ 565p

978-4-296-11950-9

¥5,500〔税込〕



世界文学全集～池澤夏樹=個人編集～<1-06> 暗夜/戦争の悲しみ

残雪、パオ・ニン 著

河出書房新社

現代中国屈指の語り手が紡ぎ出す、夢の論理に満ちた奇想天外な物語集と、凄惨なベトナム戦争を舞台に男女の哀切きわまる恋の行方を描く長編「戦争の悲しみ」を収録。

読売新聞 2025/10/05

2008:8./ 544p

978-4-309-70946-8

¥3,740〔税込〕



熊になったわたし～人類学者、シベリアで世界の狭間に生きる～

ナスターシャ・マルタン 著

紀伊國屋書店出版部

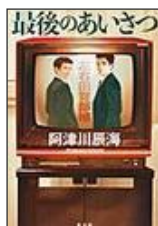
カムチャツカの森で先住民族を研究するフランスの人類学者が、熊に襲われて大けがを負う。その日を境に西洋とシベリアの世界観、人間と獣の世界の境界が崩壊し…。九死に一生を得た人類学者の変容と再生の軌跡。

読売新聞 2025/10/05

2025:8./ 206p

978-4-314-01211-9

¥2,200〔税込〕



最後のあいさつ

阿津川辰海 著

光文社

30年前の国民的ドラマ「左右田警部補」は、主演俳優・雪宗衛が妻殺しの容疑で逮捕され、打ち切りとなる。時を経て、同様の手口の殺人が確認されたいま、関係者の時間が再び動き出す。

読売新聞 2025/10/05

2025:8./ 414p

978-4-334-10745-1

¥1,980〔税込〕





絶賛語辞典

大修館書店編集部 編

関根 健一 著

大修館書店

心に響く褒め言葉=「絶賛語」を選ぶための辞典。「いい感じ」「かわいい」「泣ける」「空気が読める」など褒め言葉とその類語、2000語以上を例文付きで紹介。注意したい言葉の使い方やニュアンスも解説。五十音索引付き。

読売新聞 2025/10/05

2025.8./ 256p

978-4-469-22290-6

¥1,980〔税込〕



日本手話がおしえてくれること〜ろう者から学ぶための65の疑問〜(まなびの地図)

NPO法人バイリンガル・バイカルチュラルろう教育センター 編

榎陽子／岡典栄 著

大修館書店

手話はだれがつくった? 方言はあるの? 自身もろう者である著者が、手話の基礎知識、日本手話のしくみ・学習方法、ろう者たちの暮らしや文化などをQ&A形式で紹介する。動画を見られるQRコード(図書館利用可)付き。

読売新聞 2025/10/05

2025.8./ 175p

978-4-469-29120-9

¥1,980〔税込〕



商人の戦国時代(ちくま新書 1871)

川戸 貴史 著

筑摩書房

中央権力が衰退し混迷する戦国時代。幕府、朝廷、大名など様々なプレイヤーが乱立するなか、商人たちは何を頼り生き延びたのか? 史料に現れる、余りに人間的なエピソードの数々から、乱世を生き延びる戦略を紹介する。

読売新聞 2025/10/05

2025.8./ 318p

978-4-480-07704-2

¥1,155〔税込〕



ヤクザときどきピアノ 増補版(ちくま文庫 す 35-1)

鈴木 智彦 著

筑摩書房

校了明けに見た1本の映画が人生を変えた。雑誌に暴力団関連記事を寄稿する52歳のライターが、今度はピアノ教室に潜入?! 譜面も読めない「俺」が、舞台上でABBAを演奏するまでの1年間を綴る。増補し文庫化。

読売新聞 2025/10/05

2025.9./ 211p

978-4-480-44051-8

¥880〔税込〕





戦争が巨木を伐った〜太平洋戦争と供木運動・木造船〜(平凡社ライブラリー 996)

瀬田 勝哉 著
平凡社

第二次世界大戦中、「軍需造船供木運動」の名のもとに、100万本を超える巨木・大木が伐採された。名もなき木と人びとの記憶を掘り起こし、供木運動と木造船の歴史に埋もれた国家総動員体制の全貌を明らかにする。

読売新聞 2025/10/05

2025.8./ 557p
978-4-582-76996-8

¥2,640〔税込〕



乱歩ラビリンス〜池袋から人外境まで〜

立教大学江戸川乱歩記念大衆文化研究センター 編
図書出版みぎわ

複雑で錯綜した存在としての江戸川乱歩。その誕生から、作家としてのデビュー、文壇の中心人物となるまでの生涯を、写真や資料とともに紹介する。年譜も掲載。江戸川乱歩記念大衆文化研究センターの公式図録。

読売新聞 2025/10/05

2025.9./ 127p
978-4-911029-21-3

¥2,640〔税込〕



人と人とのにんまりする話(語り聞かせたい日本の昔ばなし)

小澤昔ばなし研究所、小澤昔ばなし大学再話研究会 著
岩波書店

愚かに見えた人が、じつは賢かったり、怠け者も成功を収めたり。「打たずの太鼓」「三年寝坊太郎」「せんとくのお金」など、“人生何が幸いするかわからない”と思わされる100の昔ばなしを、共通語で収録する。

読売新聞 2025/10/12

2025.8./ 314p
978-4-00-027208-7

¥2,970〔税込〕



オスマン帝国の肖像〜絵画で読む六〇〇年史〜(角川新書 K-490)

小笠原 弘幸 著
KADOKAWA

古都コンスタンティノープルを征服し、世界に名を轟かせた「尚武の国」。その事跡を史書に刻んだ色彩豊かな細密画は、君主たちの覇業と衰亡をどのように描いたのか。東西文明の境で紡がれた知られざる絵画史を綴る。

読売新聞 2025/10/12

2025.8./ 296p
978-4-04-082520-5

¥1,100〔税込〕



後宮〜殷から唐・五代十国まで〜(角川新書 K-494)

加藤 徹 著
KADOKAWA

小都市なみの規模を持つ巨大な密室、後宮。3000年以上も存続に成功した、公的な外廷政治と密室的な内廷政治の二本立てという中国系国家システムから、中国史をひもとく。

読売新聞 2025/10/12

2025.9./ 403p
978-4-04-082533-5

¥1,430〔税込〕





N(集英社文庫 み 46-3)

道尾 秀介 著
集英社

「魔法の鼻を持つ犬」とともに教え子の秘密を探る理科教師、殺人事件の真実を掴むべくペット探偵を尾行する女性刑事…。1章おきに上下逆転して印刷されている全6章。読みたい順番で読むことで、720通りの物語が楽しめる。

読売新聞 2025/10/12

2024.6./ 406p
978-4-08-744658-6

¥990〔税込〕



無境界家族(集英社文庫)

森巢 博 著
集英社

読売新聞 2025/10/12

2002.10./ 277p
978-4-08-747505-0

¥586〔税込〕



ヒカルの碁<1> 棋聖降臨(ジャンプ・コミックス)

小畑 健、ほった ゆみ 著
集英社

ある日小6のヒカルは蔵で古い碁盤を見つける。その瞬間、碁盤に宿っていた平安の天才棋士・藤原佐為の霊がヒカルの意識の中に入り込んだ。佐為の囲碁に対する一途な想いが、徐々にヒカルを囲碁の世界へと導いていく…。

読売新聞 2025/10/12

1999.4./ 183p
978-4-08-872717-2

¥429〔税込〕



木挽町のあだ討ち(新潮文庫 な-107-3)

永井 紗耶子 著
新潮社

雪の降る夜、芝居小屋のすぐそばで、美しい若衆によるみごとな仇討ちが成し遂げられた。2年後、ある若侍が大事件の顛末を聞きたいと木挽町を訪れる。芝居者たちの話から炙り出される真相は…。2026年2月公開映画の原作。

読売新聞 2025/10/12

2025.10./ 354p
978-4-10-102883-5

¥781〔税込〕



小説作法の奥義(新潮文庫 あ-7-43)

阿刀田 高 著
新潮社

物語が躍動する登場人物命名法、読者を満足させる<九合目の理論>、書き出しとタイトルのパターンとコツ…。短篇の名匠・阿刀田高が、作家人生と読書歴を振り返り、培ったテクニックを公開する。

読売新聞 2025/10/12

2025.9./ 318p
978-4-10-125543-9

¥693〔税込〕





遺された者たちへ(CREST BOOKS)

マッテオ・B・ピアンキ 著

新潮社

7年間同棲して別れた直後のパートナーの自死。やり場のない自責の念や罪悪感、そして埋めようのない寂しさ…。最愛の人を突然喪った作家が、四半世紀をかけて、言葉ではどうも表現しきれない痛みを綴った自伝的小説。

読売新聞 2025/10/12

2025.7./ 269p

978-4-10-590201-8

¥2,420〔税込〕



日本の後宮～天皇と女性たちの古代史～(中公新書 2870)

遠藤 みどり 著

中央公論新社

天皇家の安定した皇位継承のために創られた後宮で、妃・夫人・嬪・女御・更衣という後宮たちはどのように創られ、暮らしていたのか。起源から平安末期までの歴史を追い、制度とその実態を描く。

読売新聞 2025/10/12

2025.8./ 264p

978-4-12-102870-9

¥1,100〔税込〕



独自性の作り方～この時代を生きるための～

田村 正資 著

インプレス

自分の世界に居るまま、社会から評価され、独自のポジションを得て無理せず生きるには。自分の独自性の種を発見し、それを成長させ、他の人が共感し魅力を感じてくれるアウトプットにまで持っていく方法を紹介する。

読売新聞 2025/10/12

2025.7./ 207p

978-4-295-41117-8

¥1,870〔税込〕



鎌倉茶藝館

伊吹有喜 著

光文社

生きる気力をなくし、ふと訪れた鎌倉で暮らし始めた美紀は、古い洋館の台湾茶カフェ「鎌倉茶藝館」で働き始める。そこには、新たな出会いやときめきがあった。そして…。『小説宝石』掲載を大幅に加筆修正。

読売新聞 2025/10/12

2025.8./ 333p

978-4-334-10746-8

¥1,980〔税込〕



硝子の塔の殺人(実業之日本社文庫 ち 1-7)

知念 実希人 著

実業之日本社

雪深き森で、燦然と輝く硝子の塔。ミステリを愛する大富豪の呼びかけで、一癖も二癖もあるゲストたちが招かれた。館の主人が毒殺され、ダイニングでは血塗れの遺体が。名探偵・碧月夜と医師・一条遊馬が謎を追う。

読売新聞 2025/10/12

2025.10./ 555p

978-4-408-55976-6

¥1,100〔税込〕





弁護士不足～日本を支える法的インフラの危機～(ちくま新書 1877)

内田 貴 著

筑摩書房

沈没寸前の「この国の基盤」をどうするか？ 社会・経済を法的に支える専門職の弁護士が足りない。ロースクール・司法試験という人材養成課程の失敗に着目し、そのマーケットや仕事の本質も含めて検証する。

2025:9./ 265p
978-4-480-07707-3

¥1,056〔税込〕



読売新聞 2025/10/12



松本隆 言葉の教室(ちくま文庫 の 20-1)

延江 浩 著

筑摩書房

「木綿のハンカチーフ」「ルビーの指環」「硝子の少年」…。2000 曲以上を手掛け、50 曲以上がヒットチャート 1 位になるなど、数多くの記憶に残る曲を生んだ松本隆。稀代の作詞家の、言葉とのつき合い方について解説する。

2025:9./ 189p
978-4-480-44043-3

¥880〔税込〕



読売新聞 2025/10/12



これからの時代を生き抜くための民俗学入門

島村恭則 著

辰巳出版

「霊的なもの」のある世界、地名と方言、口承文芸、民俗学の聖地…。些末なものに価値を見出す民俗学をわかりやすく解説する。関西学院大学の講義に入門的要素を加えて書籍化。

2025:9./ 255p
978-4-7778-3197-5

¥1,760〔税込〕



読売新聞 2025/10/12



井上靖～わが一期一会～(人間の記録)

井上 靖 著

日本図書センター

壮大なスケールの歴史小説を描いた物語の名手が語る愛と感動の人間ドラマ。別離について、旅情について、詩について、その他著者が思ったこと、感じたことについて自由に綴る。1975 年毎日新聞社刊「わが一期一会」改題。

2004:9./ 298p
978-4-8205-9579-3

¥1,980〔税込〕



読売新聞 2025/10/12



新刊めったくたガイド大大全～1978|2023～

北上次郎 著

本の雑誌社

本を紹介することに人生を捧げた書評家が、恋愛、ミステリー、SF、ハードボイルド、ノンフィクションとジャンルを超えて、1978 年～2023 年の 3458 作品を紹介。「本の雑誌」連載を単行本化。

2025:9./ 1181p
978-4-86011-606-4

¥8,800〔税込〕



読売新聞 2025/10/12



本が生まれるいちばん側で

藤原印刷 著

ライツ社

「ZINEの聖地」と呼ばれた、長野県松本市にある老舗印刷会社・藤原印刷。三代目・藤原兄弟の本づくりへの熱い想い、そして、個人の「自分で本をつくりたい」という想いに応え、伴走し続けてきた15年の軌跡を語る。

2025.9./ 227p

978-4-909044-64-8

¥2,310〔税込〕



読売新聞 2025/10/12、朝日新聞 2025/10/18、毎日新聞 2025/10/25



学校では教えてくれないシェイクスピア〜「名作」と友達になる〜

北村紗衣 著

朝日出版社

批評家と男子高校生が、人種、ジェンダー、批評理論などさまざまな現代の問題からシェイクスピアに迫る。2023年7〜9月に行った講義を再構成し、大幅に加筆。電子版特典コラム等を読めるQRコード(図書館利用可)付き。

2025.9./ 406p

978-4-255-01372-5

¥2,090〔税込〕



読売新聞 2025/10/12、毎日新聞 2025/10/18

遷東綺譚 改版(岩波文庫 緑 41-5)

永井 荷風 著

岩波書店

読売新聞 2025/10/19

1991.7./ 196p

978-4-00-310415-6

¥649〔税込〕



自己成長の心理学〜人間性/トランスパーソナル心理学入門〜(角川ソフィア文庫 G121-2)

諸富 祥彦 著

KADOKAWA

心の病理の克服を通じて「自己の成長」を目指す人間性心理学/トランスパーソナル心理学を紹介。心豊かに生きるための自己成長の方法を、カール・ロジャーズ、ビクトール・フランクル、キューブラ・ロスらの思想から解説する。

2025.9./ 248p

978-4-04-400854-3

¥1,276〔税込〕



読売新聞 2025/10/19



苦海浄土〜わが水俣病〜 新装版(講談社文庫)

石牟礼 道子 著

講談社

工場廃水の水銀が引き起こした文明の病・水俣病。この地に育った著者は、患者とその家族の苦しみを自らのものとして、壮絶かつ清冽な記録を綴った。未永く読み継がれるべき“いのちの文学”の新装版。

2004.7./ 416p

978-4-06-274815-5

¥836〔税込〕



読売新聞 2025/10/19



献灯使(講談社文庫 た 74-4)

多和田 葉子 著

講談社

大災厄に見舞われた後、鎖国状態の日本。死を奪われた世代の老人・義郎には、体が弱い曾孫・無名をめぐる心配事が尽きない。やがて無名は「献灯使」として海外へ旅立つ運命に…。全 5 編を収録。

読売新聞 2025/10/19

2017:8./ 268p
978-4-06-293728-3

¥715〔税込〕



世界 99<下>

村田 沙耶香 著

集英社

14 年前、「リセット」を経験した人類。49 歳になった空子は生まれ育った「クリーン・タウン」の実家に戻る。やっと訪れた穏やかな社会の中心には、さらに変貌したピョコルンがいて…。『すばる』連載に加筆修正し単行本化。

読売新聞 2025/10/19

2025:3./ 428p
978-4-08-770001-5

¥2,420〔税込〕



世界 99<上>

村田 沙耶香 著

集英社

性格のない人間・空子は、コミュニティごとにふさわしい人格を作り、キャラクターを使い分けて生き延びてきた。だが、ペットのかわいい生き物・ピョコルンが、とある能力を備えると…。『すばる』連載に加筆修正し単行本化。

読売新聞 2025/10/19

2025:3./ 429p
978-4-08-771879-9

¥2,420〔税込〕



ねじまき鳥クロニクル<第 1 部> 改版 泥棒かささぎ編(新潮文庫 む-5-11)

村上 春樹 著

新潮社

読売新聞 2025/10/19

2010:4./ 373p
978-4-10-100141-8

¥737〔税込〕



ねじまき鳥クロニクル<第 2 部> 改版 予言する鳥編(新潮文庫 む-5-12)

村上 春樹 著

新潮社

読売新聞 2025/10/19

2010:4./ 429p
978-4-10-100142-5

¥825〔税込〕



ねじまき鳥クロニクル<第 3 部> 改版 鳥刺し男編(新潮文庫 む-5-13)

村上 春樹 著

新潮社

読売新聞 2025/10/19

2010:4./ 600p
978-4-10-100143-2

¥1,045〔税込〕





美しい星 改版(新潮文庫)

三島 由紀夫 著
新潮社

読売新聞 2025/10/19

2003:9./ 370p
978-4-10-105013-3

¥825〔税込〕



えげつない!寄生生物(新潮文庫 な-114-1)

成田 聡子 著
新潮社

ゴキブリを奴隷のように仕えさせる宝石パチ、泳げないカマキリを入水自殺させるハリガネムシ…。寄生の中でも、宿主をマインドコントロールし、自己の都合のよいように操る技をもつ選りすぐりの寄生生物たちを紹介する。

読売新聞 2025/10/19

2025:8./ 256p
978-4-10-106361-4

¥649〔税込〕



俘虜記 改版(新潮文庫 お-6-1)

大岡 昇平 著
新潮社

読売新聞 2025/10/19

2010:8./ 571p
978-4-10-106501-4

¥990〔税込〕



個人的な体験 改版(新潮文庫 お-9-10)

大江 健三郎 著
新潮社

わが子が頭部に異常をそなえて生れてきたと知らされて、鳥(バード)は深甚な恐怖感に囚われ、嬰兒の死を願って火見子と性の逸楽に耽けるが…。暗澹たる地獄廻りの果てに自らの運命を引き受けるに至った青年の魂の遍歴を描く。

読売新聞 2025/10/19

2013:2./ 322p
978-4-10-112610-4

¥825〔税込〕



おにたろかっぱ

戌井昭人 著
中央公論新社

3歳のタロと、崖っぷちミュージシャンの父ちゃん。門司港、山口、尾道、倉敷、京都…。ライブをしながら、2人は旅をして…。親子の時間のかけがえのなさに、笑いながら泣けてくる長篇小説。『読売新聞』連載を加筆・修正。

読売新聞 2025/10/19

2025:9./ 378p
978-4-12-005947-6

¥2,860〔税込〕





紙の上の展覧会〜国文研千年の旅〜

国文学研究資料館 編

中央公論新社

「江戸名所図会」、鈴木其一「伊勢物語芥川之図」、伊藤若冲「花鳥版画」…。国文学研究資料館が所蔵する貴重な古典籍と史料を、美しい図版と専門家のやさしい解説とともに紹介する。『読売新聞』連載を加筆訂正。

読売新聞 2025/10/19

2025:9./ 253p
978-4-12-005950-6

¥3,630〔税込〕



見えない妻聴こえない夫〜ふたつの世界で目指す金メダル〜

篠原通良 著

中央公論新社

全盲クラスの走り幅跳び・日本記録保持者の妻。デフ 400 メートルハードル・日本記録保持者の夫。プロの陸上競技選手の夫婦は、パラリンピック、デフリンピックの世界を目指し…。闘い続けるふたりの物語。

読売新聞 2025/10/19

2025:10./ 241p
978-4-12-005955-1

¥2,200〔税込〕



ローマ教皇〜伝統と革新のダイナミズム〜(文春新書 1506)

山本 芳久 著

文藝春秋

ローマ教皇とはいかなる存在か。学者から転身したベネディクト 16 世、貧しい人々に寄り添ったフランシスコ、その路線を引き継ぐと目されるレオ 14 世。直近三代の教皇の言葉から、2000 年続く伝統と革新の知恵を読み解く。

読売新聞 2025/10/19

2025:8./ 255p
978-4-16-661506-3

¥1,155〔税込〕



Z 家族〜データが示す「若者と親」の近すぎる関係〜(光文社新書 1376)

博報堂生活総合研究所 著

光文社

30 年間の若者調査で顕著な変化があった家族関係を分析。スマホのやりとりも多数収録し、「メンター親」へ進化した父母の実態と時代背景に迫る。さらに、企業や社会が Z 世代とどう向き合うべきかも考える。

読売新聞 2025/10/19

2025:9./ 273p
978-4-334-10756-7

¥1,188〔税込〕



再雇用という働き方〜ミドルシニアのキャリア戦略〜(PHP 新書 1439)

坂本 貴志、松雄 茂 著

PHP 研究所

急速な人口減少と少子高齢化に直面する日本社会。ミドルシニアはキャリアの再構築や働き方の見直しを迫られている。社会と企業の変化を背景に、ミドルシニアが新たな役割を見出し、自らの価値を再発見する道を探る。

読売新聞 2025/10/19

2025:8./ 230p
978-4-569-85915-6

¥1,320〔税込〕





ポストヒューマニズムデザイン～私たちはデザインしているのか?～

ロン・ワッカリー 著

明石書店

人間中心のデザインはこれまで気候変動や環境破壊、抑圧等を生み出してきた。従来のデザインにおける暗黙の了解を解体し、ドゥルーズやラトール、インゴルドなどの思想を現実的なデザイン実践と接続する。

2025.7./ 387p
978-4-7503-5952-6

¥3,630〔税込〕



読売新聞 2025/10/19



生き物たちの情報戦略～生存をかけた静かなる戦い～ 増補版(DOJIN 文庫 023)

針山 孝彦 著

化学同人

生物がもつ時計、多細胞生物の設計原理、生き物たちの情報戦略、環境への適応戦略...。南極、ケニア、イタリアなど世界各地に赴き、生き物たちに接してきた著者が、多様な生き物たちの不思議に迫る。補章を加え文庫化。

2025.8./ 318p
978-4-7598-2523-7

¥1,320〔税込〕



読売新聞 2025/10/19



をとめよ素晴らしき人生を得よ～女人短歌のレジスタンス～

瀬戸 夏子 著

柏書房

1949年に結成された女性だけの超結社「女人短歌会」と歌誌『女人短歌』。その周辺で歌を詠み続けた女性歌人たちの戦いとシスターフッドを描く。精選120首を収めたアンソロジー付き。柏書房公式note連載を加筆修正。

2025.7./ 254p
978-4-7601-5636-8

¥2,090〔税込〕



読売新聞 2025/10/19



昆虫顔面超拡大図鑑

海野 和男／伊地知 英信 著

草思社

トゲトゲギス、セイヨウミツバチ、ハッチョウトンボ...。海野和男による驚異の昆虫図鑑。肉眼で見ることができない小さな虫の顔に極限まで近づいて撮影した昆虫顔面写真とともに、知られざる虫たちの生態を解説する。

2025.7./ 127p
978-4-7942-2792-8

¥3,850〔税込〕



読売新聞 2025/10/19



「風の谷」という希望～残すに値する未来をつくる～

安宅 和人 著

英治出版

都市集中型社会のオルタナティブは可能か？ 自然、インフラ、エネルギー、ヘルスケア、教育、食と農...。データに基づき、様々なテーマをゼロベースで問い直し、壮大なビジョンを提示する。

2025.7./ 912p
978-4-86276-350-1

¥5,500〔税込〕



読売新聞 2025/10/19



匿名への情熱～政治と知的世界をつないだブレーン 楠田寛～

和田 純 著

吉田書店

「知のサロン」を主宰し、愚直に政治に理念と言力を求め、現実主義の中道保守を貫いた、もうひとつの戦後政治史

2025:8./ 712p
978-4-910590-30-1

¥3,960〔税込〕



読売新聞 2025/10/19、産経新聞 2025/10/26



キッチン(新潮文庫)

吉本 ばなな 著

新潮社

読売新聞 2025/10/19、読売新聞 2025/10/26

2002:6./ 197p
978-4-10-135913-7

¥473〔税込〕



AIに看取られる日～2035年の「医療と介護」～(朝日新書 1022)

奥真也 著

朝日新聞出版

患者のビッグデータで超早期にがんを発見、AI 医師による誤診の責任の所在、人手不足を解決する介護 DX...テクノロジーはどこまで人間に寄り添えるか。“教養としての医療と AI”を丁寧に解説する。「未来の医療年表」続編。

2025:9./ 214p
978-4-02-295334-6

¥957〔税込〕



読売新聞 2025/10/26



戦場で笑う～砲声響くウクライナで兵士は寿司をほおばり、老婆たちは談笑する～

横田徹 著

朝日新聞出版

戦場を案内する愛犬第一主義のフィクサー、全身刺青の日本人義勇兵...。ウクライナ軍に従軍した日本人報道カメラマンが、ミクロの視点で現代の戦争を記録する。小泉悠との対談も収録。『Fielder』等掲載を加筆修正。

2025:7./ 317p
978-4-02-332451-0

¥2,310〔税込〕



読売新聞 2025/10/26



ハツカネズミと人間(講談社文庫 す 51-1)

ジョン・スタインベック 著

講談社

しっかり者のジョージと怪力のレニー。カリフォルニアの農場を転々として働く男たちの友情、たくましい生命力、そして苛酷な現実と悲劇を、温かいヒューマンイズムの眼差しで描いた名作を新訳。

2023:9./ 195p
978-4-06-532731-9

¥682〔税込〕



読売新聞 2025/10/26



虚池空白の自由律な事件簿

森 晶磨 著

集英社

自由律俳句の伝道師といわれる俳人・虚池空白と編集者の古戸馬は、詠み人知らずの名句<野良句>を集めている。そんな彼らが手にした<野良句>の裏には、それぞれの秘密が隠されていた。『小説すばる』掲載を単行本化。

読売新聞 2025/10/26

2025:8./ 282p

978-4-08-770018-3

¥1,980〔税込〕



雪国 新版(新潮文庫 か-1-1)

川端 康成 著

新潮社

陶器のように白い肌、なめらかな唇。駒子に再び会うため、汽車へと乗り込んだ島村は、同じ車両にいた葉子という娘が気になる。葉子と駒子の間には、あるつながりが…。徹底した情景描写で日本的な「美」を結晶化させた名作。

読売新聞 2025/10/26

2022:6./ 223p

978-4-10-100244-6

¥506〔税込〕



雪の練習生(新潮文庫 た-106-1)

多和田 葉子 著

新潮社

サーカスの花形から事務職に転身し、やがて自伝を書き始めた「わたし」。サーカスで伝説の芸を成し遂げた娘の「トスカ」。その息子で動物園の人気者となった「クヌート」。ホッキョクグマ 3 代の物語をユーモラスに描く。

読売新聞 2025/10/26

2013:11./ 328p

978-4-10-125581-1

¥693〔税込〕



朗読者(新潮文庫)

ベルンハルト・シュリンク 著

新潮社

読売新聞 2025/10/26

2003:5./ 258p

978-4-10-200711-2

¥693〔税込〕



林檎の樹(新潮文庫 コ-1-1)

ゴールズワージー 著

新潮社

徒歩旅行の途中、果樹園のある農場に宿を求めたロンドンの学生アシャースト。彼はそこに暮す可憐な少女、ミーガンに心を奪われ、林檎の樹の下で結婚の約束をする。だが、町へ出たアシャーストを待っていた運命は…。

読売新聞 2025/10/26

2018:1./ 151p

978-4-10-208803-6

¥440〔税込〕



幻影の書(新潮文庫 オ 9-14)

ポール・オースター 著

新潮社

読売新聞 2025/10/26

2011:10./ 429p

978-4-10-245114-4

¥880〔税込〕





人間の心が分からなかった俺が、動物心理学者になるまで

岡ノ谷 一夫 著

新潮社

恋愛、ギター、時々研究。人間がロボットに見えた少年が大学院でアメリカへ留学、研究者となりジュウシマツの歌文法を発見するまでを綴った抱腹絶倒の青春記。『考える人』掲載を大幅に改稿・再編集し単行本化。

読売新聞 2025/10/26

2025:9./ 199p
978-4-10-356451-5

¥1,980〔税込〕



研修生

多和田 葉子 著

中央公論新社

日本を飛び出しドイツの書籍取次会社で研修生になった「わたし」。新生活の戸惑いのなか重ねるのは、多様なひとたちとの身近な交流。やがてゆるやかに、未来への糸口が見えてきて-。『読売新聞』連載を単行本化。

読売新聞 2025/10/26

2025:10./ 508p
978-4-12-005960-5

¥2,970〔税込〕



遺伝子は不滅である

リチャード・ドーキンス 著

早川書房

樹皮やコケそっくりに擬態するトカゲ、陸から海へ戻ったクジラ、超音波を使うイルカとコウモリの意外な共通点...。驚異に満ちた進化の物語の数々を、美しいカラーイラストとともに紹介。「遺伝子視点」で生命史全体を俯瞰する。

読売新聞 2025/10/26

2025:7./ 383p
978-4-15-210444-1

¥4,950〔税込〕



全員経営～ハイパフォーマンスを生む現場 13のケーススタディ～ 新装版(日経ビジネス人文庫)

野中郁次郎／勝見明 著

日経B P社

読売新聞 2025/10/26

2025:9./ 368p
978-4-296-12606-4

¥1,100〔税込〕



自分以外全員他人(ちくま文庫 に22-1)

西村 亨 著

筑摩書房

マッサージ店で勤務する柳田譲、44歳、独身。傷つきやすく人付き合いが苦手な彼の心を迷惑な客や俗悪な同僚、老いた母や義父が削り取っていく。自死することだけが希望となった柳田をさらに世界の図らざる悪意が翻弄する-。

読売新聞 2025/10/26

2025:9./ 156p
978-4-480-44053-2

¥836〔税込〕





コージーボーイズ、あるいは四度ドアを開く(ミステリ・フロンティア 123)

笛吹 太郎 著

東京創元社

父のデビュー作の初版本はどこに？ スナックのママさんの予知能力は本物か？ カフェ<アンブル>では、<コージーボーイズの集い>によってゆるゆると推理合戦が行われ…。気軽に、のんびり楽しめるミステリ全7編を収録。

読売新聞 2025/10/26

2025:7./ 253p
978-4-488-02029-3

¥2,090〔税込〕



写本に描かれた本たち～西洋中世からルネサンスにみる本の象徴性と実用性～

ルーシー・フリーマン・サンドラー 著

白水社

本とは、いかなる意味を持った存在だったのか。大英図書館所蔵の5～16世紀末の貴重な写本を中心とする図版90点あまりを土台に、冊子本や巻物が描かれた彩飾写本の挿絵を読み解く。

読売新聞 2025/10/26

2025:8./ 258p
978-4-560-09192-0

¥2,950〔税込〕



地図で見るパレスチナハンドブック

ピエール・ブラン／ジャン＝ポール・シャニョロー 著

原書房

2023年10月7日以来、イスラエルとの紛争で悲惨な戦闘が繰り広げられているパレスチナ。約100枚の地図とグラフで、悲劇的な衝突の背景を理解するための政治的、歴史的、地理的なルーツを解説する。

読売新聞 2025/10/26

2025:10./ 173p
978-4-562-07541-6

¥3,850〔税込〕



最強の教訓!世界史～まさかの結末に学ぶ～(PHP文庫 し 66-3)

神野 正史 著

PHP研究所

怨嗟を募らせる労働者への“まさかの策”をとったビスマルク、側近をイエスマンで固めたヒトラーの“まさかの進撃”…。「まさかの展開」となった歴史上の事例を紹介し、重要な教訓を引き出す。

読売新聞 2025/10/26

2025:10./ 396p
978-4-569-90521-1

¥1,430〔税込〕



没後70年坂口安吾～あちらこちら命がけ～

県立神奈川近代文学館／公益財団法人神奈川文学振興会 編

平凡社

豪放な生きざまの無頼派作家として、不動の人気を誇る坂口安吾。戦後の10年間を命がけで駆け抜け、48歳で急逝した安吾の生涯を、原稿や書簡、遺品など、多くの貴重資料とともに振り返る。2025年開催の特別展公式図録。

読売新聞 2025/10/26

2025:10./ 175p
978-4-582-20742-2

¥2,640〔税込〕





フレデリック～ちょっとかわったのねずみのはなし～(レオ=レオニシリーズ 2)

レオ・レオニ 著
好学社

仲間の野ねずみが冬に備えて食料を貯えている夏の午後、フレデリックだけは何もせず、ぼんやり過ごしておりました。「ぼくはおひさまのひかりをあつめてるんだ。」 やがて寒い冬がきて…。

読売新聞 2025/10/26

1980:1./ 32p
978-4-7690-2002-8

¥1,650〔税込〕



神戸元町ジャーナル～通り過ぎた人々、喪われた街～

柳原 一徳 編
平野 義昌 著
みずのわ出版

神戸の街にかつて存在し、通り過ぎていった人々、戦災と震災を経て喪われた街の記憶を辿る。『みなと元町タウンニュース』連載「海という名の本屋が消えた」、みずのわ出版サイト内連載「神戸・本屋漂流記」などを改稿し収録。

読売新聞 2025/10/26

2025:7./ 223p
978-4-86426-054-1

¥5,500〔税込〕



ベートーヴェンの生涯 改版(岩波文庫 赤 556-2)

ロマン・ロラン 著
岩波書店

少年時代からベートーヴェンの音楽を生活の友とし、その生き方を自らの生の戦いの中で支えとしてきたロマン・ロラン(1866-1944)によるベートーヴェン賛歌。

日本経済新聞 2025/10/04

1965:4./ 218p
978-4-00-325562-9

¥792〔税込〕



文化が違えば、心も違う?～文化心理学の冒険～(岩波新書 新赤版 2078)

北山 忍 著
岩波書店

日本人は協働的でアメリカ人は個人主義? このような違いはどこから生まれ、文化と心にはどのような関係があるのか。多様な知見を駆使して人間の心のメカニズムを解明する、文化心理学の最先端の試みを紹介。

日本経済新聞 2025/10/04

2025:8./ 232p
978-4-00-432078-4

¥1,034〔税込〕



極秘文書が明かす戦後日本外交～歴代首相の決断に迫る～

藤田直央 著
朝日新聞出版

日本を方向づけた知られざる交渉の瞬間とは。田中角栄が譲歩させた北方領土、中曽根康弘の日米経済摩擦での誤算…。朝日新聞記者によって発掘、外務省から開示された「公文書」から新事実を明らかにする。

日本経済新聞 2025/10/04

2025:8./ 398p
978-4-02-252076-0

¥2,420〔税込〕





刑事継承(角川文庫 ほ 29-8)

本城 雅人 著

KADOKAWA

東京の町田市内で飲食店の女性経営者が行方不明となり、常連客から失踪届が出された。警視庁捜査一課の山本俊太郎と信楽京介は、殺人事件の匂いを嗅ぎ取り、客の根来の別件聴取を強行するが、根来にはアリバイがあり…。

日本経済新聞 2025/10/04

2025:9./ 294p

978-4-04-116597-3

¥946〔税込〕



三国志<1>(吉川英治歴史時代文庫)

吉川 英治 著

講談社

日本では卑弥呼が邪馬台国を統治する頃、中国は後漢も霊帝の代、政治の腐爛は黄巾賊を各地にはびこらせ、民衆は喘ぎ苦しむ。このとき、たく県は楼桑村の一青年劉備は、同志関羽、張飛と桃園に義盟を結び、害賊を討ち、世を救わんことを誓う。

日本経済新聞 2025/10/04

1989:4./ 511p

978-4-06-196533-1

¥1,012〔税込〕



セキュリティの共和国～戦略文化とアメリカ文学～

新田 啓子 著

講談社

「セキュリティ」と「戦略文化」という切り口でアメリカ文学を読む。文学に結晶した想像力を対象に素描した「セキュリティの共和国」としてのアメリカ論。『群像』連載を書籍化。

日本経済新聞 2025/10/04

2025:8./ 416p

978-4-06-540432-4

¥3,300〔税込〕



プラハの春<上>(集英社文庫)

春江 一也 著

集英社

1968 年、民主化運動に揺れるチェコスロバキア。ひとりの女性を愛したがために、外交官・堀江亮介は時代の奔流に巻き込まれてゆく。現役外交官が自らの体験をもとに描くラブロマン。(解説・吉野 仁)

日本経済新聞 2025/10/04

2000:3./ 465p

978-4-08-747173-1

¥1,034〔税込〕



プラハの春<下>(集英社文庫)

春江 一也 著

集英社

日本経済新聞 2025/10/04

2000:3./ 467p

978-4-08-747174-8

¥979〔税込〕





すべては導かれている～逆境を越え、人生を拓く五つの覚悟～

田坂 広志 著

小学館

生死の境の病という最悪の逆境の中で、「すべては導かれている」との覚悟を掴んだ瞬間から、自分の中に眠っていた様々な可能性が開花し始め…。科学の道を歩んできた著者が、覚悟を定めるための方法を具体的に語る。

日本経済新聞 2025/10/04

2017:11./ 239p
978-4-09-388585-0

¥1,430〔税込〕



GOAT meets～作家と出会う作家も出会う～<01>(Shogakukan Select Mook)

金原 ひとみ／朝吹 真理子／小田 雅久仁／乗代 雄介／イ ラン 著

小学館

さまざまな「ミーツ」を届ける、文芸誌『GOAT』の姉妹誌。01は、「よむ、つなぐ、こえる 韓国文学を旅する」などを特集。詩や短歌、唐田えりかのインタビュー等も収録する。テキストデータ申請用 QR コード付き。

日本経済新聞 2025/10/04

2025:7./ 302p
978-4-09-802110-9

¥2,200〔税込〕



八日目の蟬(中公文庫 か 61-3)

角田 光代 著

中央公論新社

日本経済新聞 2025/10/04

2011:1./ 376p
978-4-12-205425-7

¥649〔税込〕



ホワイトカラー消滅～私たちは働き方をどう変えるべきか～(NHK 出版新書 728)

富山 和彦 著

N H K 出版

人手不足とデジタル化による人余りが同時に起きつつある日本社会。ホワイトカラーは、生き残る選択肢がほとんどなくなっていく。企業再生支援の第一人者が、ホワイトカラーの存在価値と働き場所を新たに見出す方策を示す。

日本経済新聞 2025/10/04

2024:10./ 302p
978-4-14-088728-8

¥1,133〔税込〕



記者は天国に行けない～反骨のジャーナリズム戦記～

清武 英利 著

文藝春秋

四大証券会社の損失補填を暴いたスクープ記者時代、渡邊恒雄との対決の内幕…。「独裁者」に立ち向かった男が、恥辱に満ちた抵抗の半生と、特ダネに情熱を注ぐ反骨記者たちの生き様を描く。『文藝春秋』連載を加筆し書籍化。

日本経済新聞 2025/10/04

2025:8./ 605p
978-4-16-392011-5

¥2,750〔税込〕





7

トリストラン・ガルシア 著

河出書房新社

ドラッグの売人、元ロック・スター、トップモデル、革命家、UFO 研究者、分断世界の監察官、そして、不滅の男。フランスの気鋭の哲学者・作家が描く、7 つの物語が交差する奇想天外な小説作品。

日本経済新聞 2025/10/04

2025:8./ 517p

978-4-309-20929-6

¥5,280〔税込〕



蜜蜂と遠雷<上>(幻冬舎文庫 お-7-14)

恩田 陸 著

幻冬舎

芳ヶ江国際ピアノコンクール。自宅に楽器を持たない少年・風間塵、かつての天才少女・栄伝亜夜、サラリーマン・高島明石、優勝候補・マサル。天才たちによる、競争という名の自らの闘い。その火蓋が切られた。

日本経済新聞 2025/10/04

2019:4./ 454p

978-4-344-42852-2

¥924〔税込〕



蜜蜂と遠雷<下>(幻冬舎文庫 お-7-15)

恩田 陸 著

幻冬舎

2 次予選での課題曲「春と修羅」。マサルの演奏は素晴らしかった。が、明石は自分の「春と修羅」に自信を持ち、勝算を感じていた。3 次、本選に勝ち進むのは誰か。そして優勝を手にするのは...

日本経済新聞 2025/10/04

2019:4./ 508p

978-4-344-42853-9

¥924〔税込〕



難題が飛び込む男 土光敏夫(日経ビジネス人文庫 い 8-4)

伊丹 敬之 著

日本経済新聞出版社

石川島重工、東芝の再建、行政改革という 3 つの難題を成し遂げた国民的英雄、土光敏夫。彼はどんな人間だったのか。なぜ 3 つの再建が可能だったのか。マネジメントを熟知した戦略研究者が、稀代の経営者の軌跡を明らかにする。

日本経済新聞 2025/10/04

2019:8./ 337p

978-4-532-19956-2

¥990〔税込〕



1619 年プロジェクト～アメリカの黒人差別の歴史～<上>

ニコール・ハナ＝ジョーンズ 著

白水社

最初のアフリカ系黒人奴隷が到着した「1619 年がアメリカの真の始まり」と位置づけ、人種、政治から音楽、正義まで、多様なテーマの論文・詩・短篇を編んだ歴史書。上は、1619～1866 年の作品を収録。

日本経済新聞 2025/10/04

2025:7./ 404p

978-4-560-09173-9

¥4,180〔税込〕





1619 年プロジェクト〜アメリカの黒人差別の歴史〜<下>

ニコール・ハナ＝ジョーンズ 著

白水社

日本経済新聞 2025/10/04

2025.7./ 406p

978-4-560-09185-2

¥4,180〔税込〕



生きていた松田優作

丸山 昇一 著

集英社インターナショナル

一緒に死んでもいいほど惚れていた。殺意を抱くほど憎かった-。不世出の俳優、松田優作にもっとも信頼され、過酷な仕事もともにした脚本家が、優作との疾風怒濤の日々を初めて綴る。優作主演想定の新作シナリオも収録。

日本経済新聞 2025/10/04

2025.8./ 238p

978-4-7976-7455-2

¥2,200〔税込〕



スネーク・ピープル〜ジグザグデモ、あるいは戦術の系譜〜

酒井 隆史 著

洛北出版

路上を蛇行するジグザグデモは、デモンストレーションの華であり、労働者・失業者、老若男女・色とりどりの人びとを魅了した。戦前から安保闘争にいたる、蛇行デモの軌跡を追尾する。

日本経済新聞 2025/10/04

2025.8./ 413p

978-4-903127-37-8

¥3,080〔税込〕



知られざる金正恩〜四代目プリンセスとバスケット監督〜

鄭 成長 著

ワニブックス

金正恩は狂人ではない! 彼の戦略を正しく分析しないと危険である-。韓国を代表する北朝鮮研究者が放つ、禁断の書。北朝鮮の脅威に正しく向き合うために、金正恩の政治と戦略、家族と今後を解き明かす。

日本経済新聞 2025/10/04、産経新聞 2025/10/19

2025.7./ 397p

978-4-8470-7558-2

¥2,200〔税込〕



アメリカの中東戦略とはなにか〜石油・戦争・同盟〜

溝渕 正季 著

慶應義塾大学出版会

湾岸戦争、イラク戦争、イスラエルやイランへの直接的な関与…。アメリカはなぜ中東に介入するのか? アメリカによる中東関与政策の変遷とダイナミズムを分析し、そこに通底する戦略的理論を読み解く。

日本経済新聞 2025/10/04、朝日新聞 2025/10/11

2025.8./ 280p

978-4-7664-3045-5

¥2,970〔税込〕





イン・ザ・メガチャーチ

朝井リョウ 著

日経BP社

「神がないこの国で人を操るには、“物語”を使うのが一番いいですよ」 ファンダム経済を築く者、のめり込む者、のめり込んでいた者…。三者三様の視点から、“物語”の功罪を炙り出す。『日本経済新聞』連載を単行本化。

日本経済新聞 2025/10/04、読売新聞 2025/10/19

2025:9./ 444p

978-4-296-12104-5

¥2,200〔税込〕



介護未満の父に起きたこと(新潮新書 1098)

ジェーン・スー 著

新潮社

82歳の父が突然ひとり暮らしに。唯一の家族である娘は、あえてビジネスライクにサポート。日々体力と記憶力が衰えていく父のケアに奔走した著者が、「介護前夜」の5年間を綴る。『波』、WEB『考える人』連載を加筆修正。

日本経済新聞 2025/10/04、毎日新聞 2025/10/11

2025:8./ 222p

978-4-10-611098-6

¥990〔税込〕



やし酒飲み(岩波文庫 赤 801-1)

エイモス・チュツオーラ 著

岩波書店

アフリカの底なしの森。10歳の頃からやし酒を飲むことしか能のない男が、死んだやし酒づくりの名人をとり戻しに「死者の町」に出かける。幽鬼が妖しく行き交う森を変幻自在にさまようやし酒飲みの冒険譚。

日本経済新聞 2025/10/11

2012:10./ 236p

978-4-00-328011-9

¥792〔税込〕



サラゴサ手稿<上>(岩波文庫 赤 N519-1)

ヤン・ポトツキ 著

岩波書店

ポーランドの貴族ポトツキが仏語で著した奇想天外な物語。シエラ・モレナの山中をさまようアルフォンソの61日間の手記によって、彼が出会った謎めいた人々と、その数奇な運命が語られる。上は、第1～20日を収録。

日本経済新聞 2025/10/11

2022:9./ 506p

978-4-00-375133-6

¥1,254〔税込〕



サラゴサ手稿<中>(岩波文庫 赤 N519-2)

ヤン・ポトツキ 著

岩波書店

日本経済新聞 2025/10/11

2022:11./ 448p

978-4-00-375134-3

¥1,177〔税込〕



サラゴサ手稿<下>(岩波文庫 赤 N519-3)

ヤン・ポトツキ 著

岩波書店

日本経済新聞 2025/10/11

2023:1./ 464p

978-4-00-375135-0

¥1,276〔税込〕





本なら売るほど<1>(HARTA COMIX)

児島 青 著

KADOKAWA

ひつつめ髪の気だるげな青年が営む古本屋「十月堂」。店主の人柄と素敵な品ぞろえに惹かれて、今日もいろんなお客が訪れる。本を愛し、本に人生を変えられたすべての人へ贈る、珠玉のヒューマンドラマ!

日本経済新聞 2025/10/11

2025:1./ 192p

978-4-04-738107-0

¥792〔税込〕



世界は知財でできている(講談社現代新書 2786)

稲穂 健市 著

講談社

「知財」を制する者が世界を制す! 著作物、発明、意匠、商標、営業秘密、植物新品種など、様々な「知財」について網羅的に取り上げながら、「知財」を巡る現状と今後の方向性に関する最新知識を解説する。

日本経済新聞 2025/10/11

2025:8./ 301p

978-4-06-540786-8

¥1,210〔税込〕



探偵小石は恋しない

森 バジル 著

小学館

ミステリオタクの探偵・小石は、名探偵のように華麗に事件を解決する日を夢見ているが、事務所へ届く依頼は9割9分が色恋調査。ところが事件は、思いもよらないところで発生して…。『STORY BOX』連載を改題改稿。

日本経済新聞 2025/10/11

2025:9./ 325p

978-4-09-386763-4

¥1,870〔税込〕



ムッシュ・クラタ 改版(新潮文庫 や-5-22)

山崎 豊子 著

新潮社

日本経済新聞 2025/10/11

2011:7./ 242p

978-4-10-110422-5

¥572〔税込〕



恋人たちの森 改版(新潮文庫)

森 茉莉 著

新潮社

日本経済新聞 2025/10/11

2004:2./ 373p

978-4-10-117401-3

¥781〔税込〕





カラマーゾフの兄弟<上巻> 改版(新潮文庫 ト-1-9)

ドストエフスキー 著

新潮社

放蕩無頼な情熱漢ドミートリイ、冷徹な知性人イワン、敬虔な修道者で物語の主人公であるアリョーシャ。そして、フョードルの私生児と噂されるスメルジャコフ。これらの人物の交錯が作り出す愛憎の地獄図絵の中に、神と人間という根本問題を据え置いた世界文学屈指の名作。

日本経済新聞 2025/10/11

2012:12./ 667p
978-4-10-201010-5

¥1,100〔税込〕



カラマーゾフの兄弟<中巻> 改版(新潮文庫 ト-1-10)

ドストエフスキー 著

新潮社

日本経済新聞 2025/10/11

2012:12./ 615p
978-4-10-201011-2

¥1,045〔税込〕



カラマーゾフの兄弟<下巻> 改版(新潮文庫 ト-1-11)

ドストエフスキー 著

新潮社

日本経済新聞 2025/10/11

2012:12./ 682p
978-4-10-201012-9

¥1,155〔税込〕



日本一の農業県はどこか～農業の通信簿～(新潮新書 1026)

山口 亮子 著

新潮社

労働生産性日本一は北海道、土地生産性日本一は宮崎県。ではコスパ日本一の「最強農業県」は？農業の財政効率や生産性、農地の集積率、食料自給率など、さまざまな指標を駆使して各県農業の真の実力を読み解く。

日本経済新聞 2025/10/11

2024:1./ 264p
978-4-10-611026-9

¥946〔税込〕



トランプのアメリカ～内政と外交、そして世界～(U.P.plus)

梅川 健／佐橋 亮 編

東京大学出版会

大統領はアメリカと世界をどう変えようとしているのか？大統領就任以来、世界に驚きと不安を与え続ける第二次トランプ政権の現在を、内政、外交、社会など、あらゆる観点から気鋭の研究者が考察する。

日本経済新聞 2025/10/11

2025:8./ 243p
978-4-13-033309-2

¥2,970〔税込〕





水の戦争(文春新書 1510)

橋本 淳司 著

文藝春秋

日本各地で急増する AI データセンター、半導体工場で膨大に消費されている

「水」。水資源の支配者が国家から企業へ移ることで生まれる新たな不均衡や地政学的緊張＝「水の戦争」の現状をレポートする。

日本経済新聞 2025/10/11

2025:9./ 187p
978-4-16-661510-0

¥990〔税込〕



神と科学～世界は「何」を信じてきたのか～

ミシェル＝イヴ・ボロレ／オリヴィエ・ポナシー 著

日経 B P 社

最新科学は「神」をどう捉えているか？ 科学以外の分野では「神」をどう捉えているか？ 宇宙学・物理学・生物学・聖書・歴史・哲学などの最新の証拠をもとに「世界を動かすもの」の正体をとことん深掘りする。

日本経済新聞 2025/10/11

2025:8./ 519p
978-4-296-00103-3

¥3,080〔税込〕



コメ高騰の深層～JA 農協の圧力に屈した減反の大罪～(宝島社新書 727)

山下 一仁 著

宝島社

コメの異常な価格高騰は「減反」により高米価を維持したい JA 農協・農水省・農林族が招いた人災である！ コメを殺し、水田を殺してきた農政の黒歴史と令和コメ騒動の黒幕たちを炙り出す。

日本経済新聞 2025/10/11

2025:8./ 270p
978-4-299-06984-9

¥1,100〔税込〕



パレスチナ占領(ちくま新書 1878)

平野 雄吾 著

筑摩書房

2023 年 10 月に始まったパレスチナ自治区ガザの戦闘。2024 年までエルサレム特派員を務めた著者が、パレスチナの人々の故郷喪失と抵抗の記憶を聞きとり、イスラエル国内で被害者意識が強化される構造を読みとく。

日本経済新聞 2025/10/11

2025:9./ 272p
978-4-480-07709-7

¥1,056〔税込〕



細菌万歳！～細菌たちが地球を守る～

マリー＝モニク・ロバン 著

法政大学出版局

「微生物・細菌」の存在が地球と人間生活にとっていかに重要であるかを、インタビューと調査を交える独自の手法により明らかにする。「なぜ新型コロナウイルスが、次々と世界を襲うのか？」の続編。

日本経済新聞 2025/10/11

2025:8./ 284p
978-4-588-76209-3

¥3,850〔税込〕





おいしいが聞こえる(ハルキ文庫 ひ 10-1)

ひらい めぐみ 著

角川春樹事務所

20年間集めてきた、たまごの上に貼られたシール。自分で考えてみた食べ物の慣用句。シュークリームの甘さに救われた雨の日…。大切なひとと分かちあった食べ物の記憶があたたかく蘇るエッセイ。

日本経済新聞 2025/10/11

2025.9./ 197p
978-4-7584-4757-7

¥748〔税込〕



氷河が融けゆく国・アイスランドの物語

アンドリ・スナイル・マグナソン 著

青土社

火山の麓で、氷河の上で、崇高な大地の前で。アイスランドに生きる著者が自身や家族、これまで関わってきた人たちの視点、古くから伝わる伝承や北欧神話から、人と自然の「これまで」と「今」と「これから」を綴った随想録。

日本経済新聞 2025/10/11

2025.8./ 316p
978-4-7917-7731-0

¥3,520〔税込〕



農業政策は消費者のためにある(信山社新書)

奥原 正明 著

信山社出版

「弱い農業を守る」という発想では農業は衰退する。プロ農家の発展が、消費者の利益につながる。戦後の農政史を振り返り、コメ政策、農地政策のあるべき姿を説く。

日本経済新聞 2025/10/11

2025.6./ 216p
978-4-7972-8333-4

¥1,320〔税込〕



アーティストが服を着る理由〜表現と反抗のファッション〜

チャーリー・ポーター 著

フィルムアート社

アトリエで絵具にまみれながら制作するとき、自分の姿を作品に取り入れるとき、公の場に出るとき、彼らは何を着て、どのように自らを表現するのか。アーティストの日々の装いと制作から、わたしたちと衣服の関係を考える。

日本経済新聞 2025/10/11

2025.8./ 368p
978-4-8459-2404-2

¥3,080〔税込〕



戦下の歌舞伎巡業記〜柝の音は止まず〜

岡崎 成美 著

河出書房新社

戦前戦後にかけ、六代目尾上菊五郎を始めとする大歌舞伎一座の全国巡業を記した「旅行日誌」。窮迫の時代においても巡業をやめなかった役者に寄り添った、ある狂言作者の記録を読み解き、演劇の本質に迫るノンフィクション。

日本経済新聞 2025/10/11、読売新聞 2025/10/12

2025.8./ 269p
978-4-309-03223-8

¥3,520〔税込〕





自衛隊に告ぐ～元自衛隊現場トップが明かす自衛隊の不都合な真実～

香田洋二 著

中央公論新社

戦後 80 年間の平和に浴し、自衛隊は有事に闘えない組織になってはいないか。危機感と使命感で立ち上がった元・海上自衛隊自衛艦隊司令官(海将)が、自浄作用なき自衛隊の劣化を指弾する警告の書。

日本経済新聞 2025/10/11、毎日新聞 2025/10/11

2025:8./ 252p
978-4-12-005936-0

¥2,200〔税込〕



共感の論理～日本から始まる教育革命～(岩波新書 新赤版 2079)

渡邊 雅子 著

岩波書店

西洋近代の矛盾が何によってもたらされ、その矛盾を解決する新たなパラダイムがどのような形で現れているのかを俯瞰。利他主義を基盤としながら、多元的に思考し判断する力を育む教育のあり方を提案する。

日本経済新聞 2025/10/18

2025:9./ 206p
978-4-00-432079-1

¥990〔税込〕



8週間語学の旅～水先案内人はずれっちと様々な言語の海へ～

山本 冴里 著

KADOKAWA

ギリシャ語、スワヒリ語、韓国語など、学生たちが見知らぬ言語に立ち向かう 8 週間を追体験。また、「初めて目にする言語をどのように読みとくか」をテーマに、多言語を素材にしたトレーニングも収録する。

日本経済新聞 2025/10/18

2025:8./ 239p
978-4-04-606948-1

¥1,980〔税込〕



徳川家康<1> 出生乱離の巻(山岡荘八歴史文庫)

山岡 荘八 著

講談社

竹千代(家康)が生まれた年、信玄は 22 歳、謙信は 13 歳、信長は 9 歳であった。動乱期の英傑が天下制覇の夢を抱くさなかの誕生。それは弱小松平党にとっては希望の星であったー

日本経済新聞 2025/10/18

1987:10./ 502p
978-4-06-195023-8

¥935〔税込〕



「あの戦争」は何だったのか(講談社現代新書 2780)

辻田 真佐憲 著

講談社

日本はどこで「間違えた」のか。そもそもいつ始まったのか。掲げた理想はすべて誤りだったのか。「大東亜」は日本をどう見ていたか。日本の近現代史の素朴な「なぜ」に答え、「あの戦争」を問い直す。

日本経済新聞 2025/10/18

2025:7./ 286p
978-4-06-540499-7

¥1,155〔税込〕





悲しき虎(CREST BOOKS)

ネージュ・シンノ 著

新潮社

私は生き延びる人間だ。幼少時の継父によるレイプ、大好きだった実父の死を越えて。母親となった著者が、過酷な少女時代の体験、その傷がもたらす影響、加害者、世界中に存在する悪について綴る。

日本経済新聞 2025/10/18

2025:8./ 269p
978-4-10-590202-5

¥2,420〔税込〕



女たちよ、大志を抱け～戦時下、外地で就職する～(中公選書 160)

飯田未希 著

中央公論新社

戦前から戦中、中国大陆からや南方の求人に応じ、単身海を渡った若い女性たち。なぜ彼女たちはあえて外地で就職することを選んだのか。当時の女性規範を大きく踏み越えたその行動と背景に、様々な角度から光を当てる。

日本経済新聞 2025/10/18

2025:9./ 301p
978-4-12-110162-4

¥2,475〔税込〕



複眼の映像～私と黒沢明～(文春文庫)

橋本 忍 著

文芸春秋

「生きものの記録」以後はどうも冴えない作品ばかりー。『羅生門』『生きる』『七人の侍』の共同脚本家が見た映画人、黒澤明の真実。

日本経済新聞 2025/10/18

2010:3./ 405p
978-4-16-777354-0

¥946〔税込〕



指導者とは(文春学芸ライブラリー)

リチャード・ニクソン 著

文藝春秋

チャーチル、ドゴール、マッカーサー、吉田茂…。第二次大戦後の時代を率いた世界の指導者たちの素顔とは？権力の栄光と挫折を知り尽くした米大統領だから書けた、20世紀リーダー論。

日本経済新聞 2025/10/18

2013:12./ 473p
978-4-16-813009-0

¥1,980〔税込〕



登山大名<上>

諸田玲子 著

日経BP社

四代将軍・家綱の世。公儀の執拗な締め付けに苦しむ岡藩の領主となった久清は、軍事訓練中に賊に襲われた娘を救う。娘は行方をくらますが…。安里英晴の挿絵約50点もカラーで収録。『日本経済新聞』連載を単行本化。

日本経済新聞 2025/10/18

2025:10./ 319p
978-4-296-12178-6

¥2,200〔税込〕





登山大名<下>

諸田玲子 著

日経 B P 社

岡藩の取り潰しをもくろむ幕府の執拗な探索・密謀。なぜそこまで久清を追い詰めるのか。やがて、亡父が隠し通したその出生の秘密が明らかになり…。安里英晴の挿絵約 50 点もカラーで収録。『日本経済新聞』連載を単行本化。

日本経済新聞 2025/10/18

2025.10./ 311p
978-4-296-12562-3

¥2,200〔税込〕



55 歳からのハローライフ(幻冬舎文庫 む-1-34)

村上 龍 著

幻冬舎

夫と離婚するも経済的困難から結婚相談所で男たちに会おう女、早期退職後の旅の計画を妻に拒絶される男…。みんな溜め息をつきながら生きている。人生をやり直したい人々に寄り添う「再出発」の物語。NHK 土曜ドラマの原作。

日本経済新聞 2025/10/18

2014.4./ 358p
978-4-344-42187-5

¥737〔税込〕



職場を上手にモチベートする科学的方法～無理なくやる気を引き出せる 26 のスキル～

グロービス経営大学院／若杉忠弘／浜屋祐子／米良克美／太田昂志 著

ダイヤモンド社

チームのウェルビーイングを高めると、メンバーが自主的に、周りと協力しながら仕事を進めるようになる。多くの予算や時間をかけなくてもチームのウェルビーイングを高めることのできる工夫を紹介する。

日本経済新聞 2025/10/18

2025.8./ 237p
978-4-478-11899-3

¥1,980〔税込〕



「偶然」はどのようにあなたをつくるのか～すべてが影響し合う複雑なこの世界を生きるの意味～

ブライアン・クラス 著

東洋経済新報社

人生は偶然が支配し、この世界は成り行きの産物である。なのに、なぜ私たちはそこに理由や目的、秩序があると信じてしまうのか？ 多様な知見を縦横無尽に涉猟し、世界の成り立ちや人生の価値について考える。

日本経済新聞 2025/10/18

2025.9./ 382p
978-4-492-04811-5

¥2,640〔税込〕



中央銀行～セントラルバンカーの経験した 39 年～

白川 方明 著

東洋経済新報社

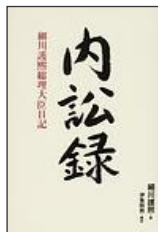
第 30 代日本銀行総裁を務めた白川方明が、日本銀行に入行した 1972 年から現在までの日本経済や日本銀行の政策の歴史を個人的体験を踏まえて論じるほか、中央銀行のあり方や望ましい通貨管理制度について考察する。

日本経済新聞 2025/10/18

2018.10./ 784p
978-4-492-65485-9

¥4,950〔税込〕





内訟録～細川護熙総理大臣日記～

細川 護熙、伊集院 敦 著

日本経済新聞出版社

「泥をかぶってでもやり抜く!」一国のリーダーとしての“信念”と“苦悩”とは。細川護熙元首相が記した 1993 年 8 月から 94 年 4 月までの在任中の日記を公開。インタビュー、解説も収録。

日本経済新聞 2025/10/18

2010:5./ 533p



9 7 8 4 5 3 2 1 6 7 4 3 1 .



道をひらく

松下幸之助 著

P H P 研究所

本書は、松下幸之助が自分の体験と人生に対する深い洞察をもとに綴った短編随想集である。あらゆる年代、職種の人に役立つ、永遠の座右の書である。

日本経済新聞 2025/10/18

1968:1./ 271p

978-4-569-53407-7

¥1,210〔税込〕



9 7 8 4 5 6 9 5 3 4 0 7 7 .

私の夢・日本の夢 21 世紀の日本(PHP 文庫)

松下 幸之助 著

P H P 研究所

日本経済新聞 2025/10/18

1994:11./ 502p

978-4-569-56706-8

¥838〔税込〕



9 7 8 4 5 6 9 5 6 7 0 6 8 .



小泉セツと夫・八雲(PHP 文庫 た 117-2)

鷹橋 忍 著

P H P 研究所

士族の娘ながら明治維新の混乱で困窮するセツと、両親の別れによって流浪の日々を送るハーン。そんなふたりが、なぜ出会ったのか? 「怪談」で知られるラフカディオ・ハーン(小泉八雲)と妻・セツの生涯と夫婦の歩みを描く。

日本経済新聞 2025/10/18

2025:9./ 205p

978-4-569-90519-8

¥957〔税込〕



9 7 8 4 5 6 9 9 0 5 1 9 8 .



動物たちのインターネット～生きものたちの知られざる知性と驚異のネットワーク～

マーティン・ヴィケルスキ、プレシ南日子 著

山と溪谷社

ネズミは地震の数日前に逃げ、渡り鳥は夜空で会話し、アシカの子どもは人間と動物の関係性を 3 年越しに記憶していた。動物たちの驚くべき知性と相互作用、そして人間との関係を描いたサイエンス・ノンフィクション。

日本経済新聞 2025/10/18

2025:9./ 311p

978-4-635-23027-8

¥2,420〔税込〕



9 7 8 4 6 3 5 2 3 0 2 7 8 .



残酷な楽観性

ローレン・バーラント 著

花伝社

愛、家族、共同体、国家…。いつ打ち碎かれるかも分からない、そこでの「よき生」を、なぜ人は追い求め、夢見つづけるのか。出口のない新自由主義社会における欲望への批評的介入を試みた、ローレン・バーラントの代表作。

日本経済新聞 2025/10/18

2025:8./ 496p
978-4-7634-2188-3

¥4,180〔税込〕



成長の臨界～「飽和資本主義」はどこへ向かうのか～

河野 龍太郎 著

慶應義塾大学出版会

現在の社会システムのまま、同じような経済活動を続けていけば、いずれ限界=臨界が訪れる。現状が維持不能なら、次に来る秩序はどう形成されるのか。エコノミストが現況を伶俐に分析し、迫り来る次の世界を展望する。

日本経済新聞 2025/10/18

2022:7./ 548p
978-4-7664-2834-6

¥2,750〔税込〕



京都出町のエスノグラフィ～ミセノマの商世界～

有馬恵子 著

青土社

京都市北部「出町」における、<もの>の交換を通じて発生する社会関係と、自律的・共同体的な関係性に着目。それらが行われる「店」と店を取り巻く商世界の様相を、エスノグラフィック・リサーチを用いて描く。

日本経済新聞 2025/10/18

2025:7./ 453p
978-4-7917-7717-4

¥4,620〔税込〕



若手だった師匠たち～年間 1000 席の寄席通いノートから～(東京かわら版新書 8)

寺脇 研 著

東京かわら版

どんな名人にも悩み、工夫し、試行錯誤して嘶に挑んだ若手の時代があった! さん喬、雲助、権太楼ら 20 人の師匠の若かりし頃の高座を活写し、現在の芸への連なりを確認する。『落語』『東京かわら版』掲載を加筆し書籍化。

日本経済新聞 2025/10/18

2025:8./ 331p
978-4-910085-64-7

¥2,200〔税込〕



令和ファシズム論～極端へと逃走するこの国で～

井手 英策 著

筑摩書房

極端な主張を SNS でくり広げ、人びとを煽り立てる<身近な指導者>たち。この国はどこへ行くのか? ファシズム前夜を経験したかつての日本とドイツに光をあて、両国がファシズムに屈した背景を、財政史の観点から分析。

日本経済新聞 2025/10/18、読売新聞 2025/10/26

2025:8./ 359p
978-4-480-86486-4

¥2,200〔税込〕





コーポレートガバナンス入門(岩波新書 新赤版 2065)

太田 洋 著

岩波書店

「良い」コーポレートガバナンスとは何か。実現するために何が必要か。各国でどのような規律が行われているのか。コーポレートガバナンスの本質を明確にし、実務に必須の知識を提供する。

2025:5./ 284p
978-4-00-432065-4

¥1,166〔税込〕



日本経済新聞 2025/10/25



2050年のメディア(文春文庫 し 70-1)

下山 進 著

文藝春秋

紙かデジタルか、技術革新かスクープか。『読売新聞』『日経新聞』『Yahoo!JAPAN』を軸に、インターネット以降に起きた世界のメディア界の地殻変動を描く。新章「新聞 vs. プラットフォーマー」を加筆し文庫化。

2023:4./ 548p
978-4-16-792032-6

¥1,210〔税込〕



日本経済新聞 2025/10/25



梧桐に眠る

澤田瞳子 著

潮出版社

8世紀の奈良、遣唐使に伴われて唐の長安からやってきた袁晋卿。孤独な生活を余儀なくされていた彼は、浮浪児たちと出会い、心を通わせていき…。デビュー作「孤鷹の天」へと続く物語。『潮』連載を加筆・修正。

2025:9./ 355p
978-4-267-02473-3

¥2,200〔税込〕



日本経済新聞 2025/10/25



技術安全保障～科学とイノベーションは平和のために何ができるか～

山本晃平 著

日経BP社

どんな技術を、どのように使えば、戦争を遠ざけられるのか。安全保障上の重要技術を特定・創出・保護・活用する方策を、多角的視点から第一人者が解説する。

2025:8./ 240p
978-4-296-12127-4

¥3,300〔税込〕



日本経済新聞 2025/10/25



危険な言語～エスペラント弾圧と迫害の歴史～

ウルリッヒ・リンス 著

国書刊行会

国際語エスペラントは、ロシアや欧州で受容される一方で苛烈な弾圧にさらされた。エスペラント運動がたどった苦難と再生の道のりと、この言語の理念に魅せられた話者たちの運命を克明に描く。

2025:9./ 496p
978-4-336-07790-5

¥3,960〔税込〕



日本経済新聞 2025/10/25



社外取締役の教科書 第2版

日本取締役協会 編
中央経済社

新任からベテランまで幅広く対象とした、社外取締役の実務指針。社外取締役の義務・責任、取締役会の運営方法、資本コスト、サステナビリティといったテーマを丁寧に解説する。

日本経済新聞 2025/10/25

2025:8./ 288p
978-4-502-54431-6

¥3,520〔税込〕



宇宙のアノマリーはどこまで判明したのか〜標準モデルを揺るがす謎の現象〜

ハリー クリフ 著
柏書房

宇宙のしくみについての一般的な考え方と矛盾するように思える、予想しない研究結果をアノマリー(異常)と呼ぶ。さまざまな実験で見つかるアノマリーを取り上げ、標準モデルのほころびを探し、その先の物理学を探る。

日本経済新聞 2025/10/25

2025:8./ 335p
978-4-7601-5637-5

¥2,860〔税込〕



思考実験大全

岡本 裕一郎 著
イースト・プレス

「デカルトの悪霊」「トロツコ問題」「予定説」…。プラトンからマルクス・ガブリエル、吉本隆明まで、古今東西の哲学者たちが編み出した思考実験 100(+1 問)を網羅。各項目はエピソードと解説で構成し、出典を明記する。

日本経済新聞 2025/10/25

2025:8./ 576p
978-4-7816-2475-4

¥2,178〔税込〕



ガバナンスを語る

中村 直人 著
商事法務

ガバナンスの在り方は変化する。日本を代表する企業法務弁護士が、法律論のみならず、世界史、社会学、哲学、経済学、国際関係論、家族論の知見を縦横無尽に駆使しつつ、日本企業のガバナンスの在り方を語る。

日本経済新聞 2025/10/25

2025:6./ 208p
978-4-7857-3165-6

¥2,640〔税込〕



「わかってもらおう」ということ〜他人と、そして自分とうまくやっていくための言葉の使い方〜

川添 愛 著
KADOKAWA

思いが相手に「伝わる」先の、「わかってもらおう」に至らせるには-。言語学者にして作家として活躍する著者が、「わかってもらおう」ためにやってみて良かったこと、大切だと思っていることを語る。

毎日新聞 2025/10/04

2025:7./ 215p
978-4-04-114885-3

¥1,760〔税込〕





死なないと、帰れない島

酒井 聡平 著

講談社

1944年7月、硫黄島。強制疎開命令を受けた最後の島民たちを乗せた船が島を出た。それは一時疎開のはずだった。散り散りになった島民たちは、なぜ今も故郷に帰れないのか。「硫黄島上陸」の著者が、この国の暗部を暴く。

毎日新聞 2025/10/04

2025:7./ 409p

978-4-06-540154-5

¥2,530〔税込〕



南海王国記

飯嶋 和一 著

小学館

「信」の失われた世界に、再び「信」を取り戻すため武人として生きる決意をした青年。1661年、西洋人がフォルモサと呼んだその島に青年が建てた国は、僅か22年の間だけ輝き…。『STORY BOX』連載を単行本化。

毎日新聞 2025/10/04

2025:8./ 507p

978-4-09-386758-0

¥2,530〔税込〕



韓国式ストーリーのつくりかた

パク ソンス 著

日経B P社

なぜ韓国ドラマのストーリーは世界を熱狂させるのか。ドラマ歴30年の韓国の人気脚本術の先生による、魅力的なストーリーを作るための実践ガイド。「梨泰院クラス」「ウ・ヨンウ弁護士は天才肌」など多くの例を元に解説。

毎日新聞 2025/10/04

2025:6./ 391p

978-4-296-00225-2

¥2,200〔税込〕



愛するということ 新訳版

エーリッヒ・フロム 著

紀伊國屋書店

毎日新聞 2025/10/04

1991:3./ 214p



学問は信頼されていないのか〜統計でみる日本における科学の政治化〜

太郎丸 博 編

新曜社

自公連立政権と学問=科学との対立が意識されるようになって久しい。では、一般市民は科学に対してどのような視線を向けているのか。果たして、学問への信頼は凋落しているのか。計量的データをもとに分析する。

毎日新聞 2025/10/04

2025:8./ 168p

978-4-7885-1890-2

¥2,750〔税込〕





ガザ・キッチン〜パレスチナ料理をめぐる旅〜

ライター・エル＝ハッダード／マギー・シュミット 著
オレンジページ

人間にとって食とは、故郷であり、歴史であり、抵抗である。ガザの料理人、農家、商人たちの仕事ぶりを切り取った写真と、ガザの人々の料理とレシピ、伝統、家族についての記録。

毎日新聞 2025/10/04

2025:6./ 337p
978-4-86593-708-4

¥4,950〔税込〕



地中海都市の空間人類学

陣内 秀信 著
古小鳥舎

イタリア、スペイン、クロアチア…。歴史の蓄積をもち、計り知れぬ豊かさを秘めた地中海都市の迷宮を奥へ奥へ。地中海周辺の古代以来の高度な文明、多種多様な個性豊かな文化、魅力あふれる建築や都市空間を読み解く。

毎日新聞 2025/10/04

2025:7./ 307p
978-4-910036-07-6

¥2,310〔税込〕



宇宙・時間・生命はどのように始まったのか?〜ホーキング「最終理論」の先にある世界〜

トマス・ハートツホ 著
ユーザベース

なぜこの宇宙は「生命を育める」のか? 宇宙物理学者スティーヴン・ホーキングの愛弟子であり、「ホーキング最終論文」の共著者でもある天才物理学者が、未完の研究を継ぎ、最大の難問を解く。

毎日新聞 2025/10/04

2025:8./ 485p
978-4-910063-43-0

¥2,970〔税込〕



帝国の隠し方〜大アメリカ合衆国の歴史〜

ダニエル・イマヴァール 著
名古屋大学出版会

アメリカ合衆国は歴史上、ハワイやフィリピンなど多数の海外領土や内陸准州を保持してきた。アメリカは辺境の地で何をしてきたのか。なぜそれは見えなかったのか。新たな帝国像とともにアメリカのリアルな姿を明るみに出す。

毎日新聞 2025/10/04、朝日新聞 2025/10/25

2025:7./ 456p
978-4-8158-1199-0

¥5,940〔税込〕



箱男 改版(新潮文庫)

安部 公房 著
新潮社

ダンボール箱を頭からすっぽりとかぶり、都市を彷徨する箱男は、覗き窓から何を見つめるのだろう。一切の帰属を捨て去り、存在証明を放棄することで彼が求め、そして得たものは?

毎日新聞 2025/10/04、読売新聞 2025/10/19

2005:5./ 246p
978-4-10-112116-1

¥737〔税込〕





運慶講義

山本 勉 著

新潮社

鎌倉方や後鳥羽院など時代の中枢と深くかかわりつつ、仏像の可能性を極めた運慶。稀代の大家の生涯と作品を、最新の研究成果もふまえて第一人者が論じ尽くす。年表も収録。『歓喜世界』連載をもとに単行本化。

毎日新聞 2025/10/04、日本経済新聞 2025/10/11

2025:8./ 190p

978-4-10-356441-6

¥2,750〔税込〕



数理モデルはなぜ現実世界を語れないのか〜社会的な視点から科学的予測を考える〜

エリカ・トンプソン 著

白揚社

現代生活を支える強力なツール「数理モデル」。パンデミックや気候変動の予測、金融リスクなどの実例をあげながら、文化や価値観、偏見といった社会・政治的な観点から数理モデルに潜む本質的な問題を明らかにする。

毎日新聞 2025/10/04、日本経済新聞 2025/10/11

2025:9./ 350p

978-4-8269-0272-4

¥3,960〔税込〕



森栄莞爾と十二人の父を知らない子供たち

逸木裕 著

中央公論新社

カリスマ経営者として愛されていた森栄莞爾。だが彼は、精子提供で105人もの子供を作っていた。自分が莞爾の子供だと知った健太は他のきょうだいたちと出会うが、きょうだいたちによる心理戦は思わぬ真実を暴きだし…。

毎日新聞 2025/10/06

2025:8./ 315p

978-4-12-005944-5

¥2,200〔税込〕



特命全権大使米欧回覧実記<3>(岩波文庫)

久米 邦武 編

田中 彰 著

岩波書店

毎日新聞 2025/10/11

1979:12./ 417p

978-4-00-331413-5

¥1,100〔税込〕



演芸写真家

橘 蓮二 著

小学館

桂二葉、古今亭志ん朝、立川談志…。気鋭のホープから古の名人、レジェンドまで。寄席で生きる人々の姿を撮り続ける演芸写真家・橘蓮二による、あの日あのを“切り撮った”真摯な一葉と、慈愛に満ちた逸話の数々を収める。

毎日新聞 2025/10/11

2025:7./ 254p

978-4-09-682502-0

¥2,750〔税込〕





日本政治思想史(新潮選書)

原 武史 著

新潮社

天皇が今なお権力の主体であるのはなぜか。儒学・国学・超国家主義など従来の思想史に「空間」と「時間」という補助線を取り入れ、江戸時代から現代にいたる「政治の根本」、日本固有の政治思想の本質を明らかにする。

毎日新聞 2025/10/11

2025:5./ 336p

978-4-10-603929-4

¥2,035〔税込〕



プラハの古本屋(中公文庫 ち 9-1)

千野 栄一 著

中央公論新社

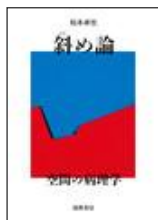
本とビールと友情と…。戦後第1回目の交換留学生としてプラハに降り立ったときから10年間、古書を探さない週はなかったという言語学者が、本と出逢う喜び、愛すべき店主たちとの交流をユーモラスに語ったエッセイ。

毎日新聞 2025/10/11

2025:8./ 293p

978-4-12-207693-8

¥1,155〔税込〕



斜め論～空間の病理学～

松本 卓也 著

筑摩書房

ビンスワンガー、中井久夫、上野千鶴子、信田さよ子、当事者研究、ガタリ、ウリ、ラカン、ハイデガーらの議論をもとに、精神病理学とそれにかかわる人間観の変遷を跡付け、「斜め」の理論をひらいていこうとする試み。

毎日新聞 2025/10/11

2025:8./ 316p

978-4-480-84333-3

¥2,420〔税込〕



ノスタルジアは世界を滅ぼすのか～ある危険な感情の歴史～

アグネス・アーノルド＝フォースター 著

東洋経済新報社

“あの頃は良かった”という甘くも切ない感情「ノスタルジア」。政治・社会・経済・ビジネスへの影響など、世の中を動かす危険な感情としてのノスタルジアの変遷を読み解き、その知られざる力と巧妙なメカニズムを解き明かす。

毎日新聞 2025/10/11

2025:9./ 386p

978-4-492-22431-1

¥2,420〔税込〕



<AIと経済学>でもっとよくなる保育政策

サイバーエージェント AI Lab 森脇 大輔、竹浪 良寛、富田 耀志、松木 一永、山

田 直行 著

日本評論社

経済学とAIテクノロジーを活用して社会を良くする「経済学社会実装チーム」が、子育てや保育政策の現場が直面する課題にフォーカスし、「AIと経済学」を活用して問題を解決する実践プロセスを、余すところなく解説する。

毎日新聞 2025/10/11

2025:9./ 258p

978-4-535-54087-3

¥2,200〔税込〕





飛鳥の古墳に葬られたのは誰か

猪熊 兼勝 著

雄山閣

長年、高松塚古墳・キトラ古墳などの発掘調査に携わった著者が、飛鳥古墳を考古学的に検証。これまでタブー視されてきた飛鳥古墳の被葬者論に挑む。

2025.8./ 258p

978-4-639-03046-1

¥2,970〔税込〕



毎日新聞 2025/10/11



デモクラシーのいろは

森 絵都 著

KADOKAWA

1946 年 11 月、GHQ が始めた“民主主義のレッスン”。教師役の日系 2 世・リュウ、生徒として選ばれた個性豊かな 4 人の女性。それぞれの思惑が交錯する中、風変わりな授業が幕を開ける。『小説野性時代』掲載を書籍化。

2025.10./ 611p

978-4-04-114176-2

¥2,310〔税込〕



毎日新聞 2025/10/11、読売新聞 2025/10/19



虚無への供物<上> 新装版(講談社文庫)

中井 英夫 著

講談社

昭和 29 年の洞爺丸沈没事故で両親を失った蒼司・紅司兄弟、従弟の藍司らのいる氷沼家に、さらなる不幸が襲う。殺人、事故? 駆け出し歌手・奈々村久生らの推理合戦が始まった。

2004.4./ 420p

978-4-06-273995-5

¥880〔税込〕



毎日新聞 2025/10/18



虚無への供物<下> 新装版(講談社文庫)

中井 英夫 著

講談社

アパートの一室での毒殺、黄色の部屋の密室トリックー素人探偵・奈々村久生と婚約者・牟礼田俊夫らが推理を重ねる。

2004.4./ 475p

978-4-06-273996-2

¥924〔税込〕



毎日新聞 2025/10/18



会話の 0.2 秒を言語学する

水野 太貴 著

新潮社

会話中、返事をするまでの 0.2 秒にどんな駆け引きや奇跡が起きているのか。言語学の歴史を振り返りつつ、「食ベログ」レビューからお笑いに日銀総裁の会見、人気漫画までを俚上に載せ、日常の言語学を解き明かす。

2025.8./ 236p

978-4-10-356431-7

¥1,760〔税込〕



毎日新聞 2025/10/18



**ローマ帝国とアフリカ～カルタゴ滅亡からイスラーム台頭までの 800 年史
～(中公新書 2871)**

大清水 裕 著
中央公論新社

新興国ローマに敗れて滅亡した北アフリカの強国カルタゴ。だが、穀倉地帯として経済的繁栄を遂げ、政治的影響力を強めて元老院議員を輩出。「辺境」はローマ本国をどう変えたのか。新しいローマ帝国像を描く。

毎日新聞 2025/10/18

2025:8./ 256p
978-4-12-102871-6

¥1,056〔税込〕



本と校正 増補新版(中公文庫 は 82-1)

長谷川 鑑平 著
中央公論新社

岩波書店と中央公論社で校正者として赤ペンを握ること三十有余年。伝説の校閲部部長が、誤植列伝から普遍的な校正の心構えまで、ユーモアたっぷりに綴る。新たなコラム 3 篇と、新・校正練習問題を掲載した増補新版。

毎日新聞 2025/10/18

2025:9./ 291p
978-4-12-207700-3

¥1,100〔税込〕



分断八〇年～韓国民主主義と南北統一の限界～

徐 台教 著
集英社クリエイティブ

なぜ、非常戒厳が繰り返されたのか。気鋭の在韓ジャーナリストが、南北分断 80 年の現代史をひもとき、新たな時代に突入しつつある韓国と朝鮮半島の未来を照らし出す。

毎日新聞 2025/10/18

2025:9./ 317p
978-4-420-31082-6

¥2,420〔税込〕



関東大震災 虐殺の謎を解く～なぜ発生し忘却されたのか～(筑摩選書 0308)

渡辺 延志 著
筑摩書房

関東大震災で多くの朝鮮人が殺されたのはなぜか。虐殺はなぜ忘却されたのか。陸軍の記録、小学生の作文、海軍練習艦の無線傍受録、隠されていた閣議の決定、恩赦をめぐる行政文書などを読み解き、徹底追及する。

毎日新聞 2025/10/18

2025:7./ 330p
978-4-480-01828-1

¥2,090〔税込〕



路面電車の神様、～広島から宇都宮へ奇跡がつないだ 14.6 キロ～

山中利之 著
JTB パブリッシング

焼け野原の広島に希望を灯した路面電車。広島電鉄で路面電車一筋に生きてきた中尾正俊が次に挑んだのは LRT(次世代型路面電車)「宇都宮ライトレール」だった。戦後 80 年、軌道に刻まれたヒューマン・ノンフィクション。

毎日新聞 2025/10/18

2025:6./ 277p
978-4-533-16609-9

¥2,090〔税込〕





伊藤熊太郎～海を渡った天才博物画家～

福地 毅彦 著

山と溪谷社

海洋調査船に絵師として乗船した伊藤熊太郎は、その後米国に渡り、米国水産局で魚類の博物画を描き続けた。熊太郎が遺した「魚譜」について考察し、経歴に空白が多い熊太郎の謎に迫る。「魚譜」収録の絵 31 枚をすべて掲載。

毎日新聞 2025/10/18

2025.9./ 246p
978-4-635-06369-2

¥2,970〔税込〕



誰にも見えない子ども～アメリカの大都市で生きるホームレスの少女の記録～

アンドレア・エリオット 著

亜紀書房

頭脳明晰で運動神経も抜群の少女ダサニは、全寮制の学校への転校を機に、貧困から抜け出す道が見え始める。一方、家族は崩壊寸前に追い込まれ…。NY ホームレスの少女とその一家に密着し、貧困の本質に迫るノンフィクション。

毎日新聞 2025/10/18

2025.9./ 699p
978-4-7505-1887-9

¥4,950〔税込〕



昆虫学事始～日本の昆虫研究を支えた人々～

奥本 大三郎 著

青土社

種の同定、標本製作から図鑑編集、ファープル「昆虫記」翻訳まで。明治から昭和にかけて、捕虫網を片手に時代を駆け抜けた 6 人の虫屋たちの姿をいきいきと描く、異色の昆虫学史。『アステイオン』等連載を大幅に加筆修正。

毎日新聞 2025/10/18

2025.9./ 320p
978-4-7917-7730-3

¥2,640〔税込〕



それがやさしさじゃ困る

赤々舎

大人が「わかったふり」をやめると、対話が始まる。『西日本新聞』連載を中心に、「おやときどきこども」刊行以降、さまざまな媒体に寄稿した文章の中からセレクトした論考・エッセイ集。

毎日新聞 2025/10/18

2025.9./ 132p
978-4-86541-210-9

¥1,980〔税込〕



オマルの日記～ガザの戦火の下で～

最所篤子 編

オマル・ハマド 著

海と月社

ありのままのガザとは。イスラエル侵攻下のガザ地区で、避難生活を送るパレスチナ人青年・オマル。彼が英語での X への投稿を始めた 2024 年 4 月から、停戦が成立した 2025 年 1 月までのポストの日本語訳を収録する。

毎日新聞 2025/10/18

2025.10./ 204p
978-4-903212-89-0

¥1,980〔税込〕





90歳、男のひとり暮らし(新潮選書)

阿刀田 高 著
新潮社

90歳にして単身生活。モットーは「十分でなくとも自分が納得できれば良し」。簡素に食事を調べ、旧知の場所を訪ね…。小説家・阿刀田高が、老いを受け止めながら日々を軽やかに過ごす方法を、ユーモアたっぷりに綴る。

毎日新聞 2025/10/18、日本経済新聞 2025/10/25

2025:9./ 219p
978-4-10-603935-5

¥1,870〔税込〕



国際俳句歳時記<夏>

向瀬美音／向瀬美音 編
ふらんす堂

俳句に興味を持つ世界の人々が季語に触れ実作できるよう、外国人に伝わりやすい季語 99 語を英語で解説し、国際俳句グループ「俳句ガーデン」に投句された世界各国の俳人たちによる俳句とその日本語訳を収録する。

毎日新聞 2025/10/21

2025:8./ 257p
978-4-7814-1611-3

¥2,750〔税込〕



微生物世界の探究～生命誕生の謎へと至る四〇〇年～

山本 太郎 著
岩波書店

微生物は人類に何をもたらしたのか。17世紀の微生物発見以降の科学的知見は、人類の生命観、世界観を変革し続けている。400年にわたる壮大な知的精神の旅路、そのドラマを描く。

毎日新聞 2025/10/25

2025:9./ 324p
978-4-00-005890-2

¥3,630〔税込〕



装いの翼～おしゃれと表現と～

行司 千絵 著
岩波書店

日々の装いを大切に、暮らしの中でも美を愛おしんだ、3人の表現者-絵本画家・いわさきちひろ、詩人・茨木のり子、美術作家・岡上淑子。丹念な取材から、それぞれの服と人生の物語を浮かび上がらせる。

毎日新聞 2025/10/25

2025:9./ 278p
978-4-00-025477-9

¥2,640〔税込〕



ザ・芸能界～首領たちの告白～

田崎 健太 著
講談社

バーニング周防郁雄、ピーイング長戸大幸、ライジング平哲夫、ホリプロ堀威夫…。これまでほとんど表舞台に出たことのない、芸能界の「首領(ドン)」たちの証言から、ザ・芸能界の「栄光と衰退」の本質をのぞき見る。

毎日新聞 2025/10/25

2025:8./ 302p
978-4-06-539839-5

¥1,870〔税込〕





生きる言葉(新潮新書 1083)

俵 万智 著

新潮社

日本語の足腰をどう鍛えるか。恋愛、子育て、ドラマ、歌会、SNS、AI など、さまざまなシーンでの言葉のつかい方を、歌人・俵万智ならではの視点で、実体験をふまえて考察する。

毎日新聞 2025/10/25

2025:4./ 235p

978-4-10-611083-2

¥1,034〔税込〕



すごい科学論文(新潮新書 1084)

池谷 裕二 著

新潮社

アルツハイマー治療、タコの利き足、母乳の意外な役割、幸福の条件…。毎日 100 本の論文をチェックする脳研究者が、世界的学術誌に掲載される最新の科学論文を厳選し、丁寧に解説する。『週刊新潮』連載をもとに書籍化。

毎日新聞 2025/10/25

2025:4./ 256p

978-4-10-611084-9

¥1,056〔税込〕



側近が見た昭和天皇～天皇の言動でたどる昭和史～(幻冬舎新書 き-5-1)

北野隆一 著

幻冬舎

戦前・戦後の重要局面で、昭和天皇は本当は何を思い、何をしたかったのか。「百武三郎日記」「拝謁記」といった天皇の肉声がりアルタイムで綴られている側近による記録を丹念に読み解き、人間・昭和天皇の知られざる姿に迫る。

毎日新聞 2025/10/25

2025:7./ 208p

978-4-344-98778-4

¥1,034〔税込〕



ビザンツ文人伝～言葉で戦った男たちの矜持と憂愁～

根津 由喜夫 著

白水社

世俗の支配層が武人とほぼ同義であった西欧中世社会とは異なり、ビザンツでは文才に長けた俗人エリートが隠然たる存在感を示していた。毀誉褒貶入り乱れた異才たちの波瀾の人生を活写する。

毎日新聞 2025/10/25

2025:9./ 594p

978-4-560-09199-9

¥7,920〔税込〕



六四五七五～虫の絵と俳句～

堀本裕樹 著

毎日新聞出版

「山国の蝶を荒しと思はずや」高浜虚子、「酔うてこほろぎと寝てゐたよ」種田山頭火、「さしのべし手と綿虫と宙にあり」綾部仁喜…。虫を詠んだ 50 の名句に虫の細密画と鑑賞文を添えた画文集。

毎日新聞 2025/10/25

2025:8./ 110p

978-4-620-32843-0

¥3,300〔税込〕





家族になろうね～特別養子縁組で子どもを迎えて～

奥田哲平 著

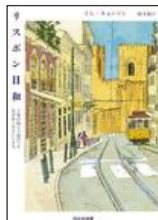
中日新聞社

不妊治療ののち特別養子縁組を通じて 40 代で新米パパになった著者が、里親になるまでの軌跡と、その体験から見てきた里親制度の現状や課題をつづる。『中日新聞 Web』不定期連載と『中日新聞』連載を加筆修正。

毎日新聞 2025/10/25

2025:9./ 261p
978-4-8062-0832-7

¥1,650〔税込〕



リスボン日和～十歳の娘と十歳だった私が歩くやさしいまち～(ぱらり BOOKS)

イム・キョンソン 著

日之出出版

亡き父母への様々な思いを胸に、幼少期に家族と過ごした思い出の地・リスボンに娘ユンソとともに再訪することを決意したキョンソン。過去の思い出と向き合い、家族の大切さや娘との新たな絆を築いた 12 日間の旅路を記す。

毎日新聞 2025/10/25

2024:9./ 166p
978-4-8387-3285-2

¥1,760〔税込〕



チョルノービリ・マニュアル～原発事故を生きる～

ケイト・ブラウン 著

緑風出版

1986 年に起きたチョルノービリ(チェルノブイリ)原発事故。30 年後に現地を訪れた著者は事故処理に投入された兵士のその後、汚染地域の住民や環境影響を調査。公文書館の貴重な文書とともに、事故の影響を明らかにする。

毎日新聞 2025/10/25

2025:3./ 534p
978-4-8461-2502-8

¥4,620〔税込〕



音楽家は本を読む。～浦久俊彦の乱読道場～

浦久 俊彦 著

アルテスパブリッシング

偉大な音楽家は読書家である。本と音楽はひとつにつながっている。本を買いすぎて図書館を建てた文化芸術プロデューサーが、音楽を愛するすべての人に贈る読書指南。メールマガジン連載を書籍化。本体は背表紙なし糸綴じ。

毎日新聞 2025/10/25

2025:6./ 302p
978-4-86559-314-3

¥3,080〔税込〕

